

目 次

【前期】

【区分】 科目番号

時 間	割				
Global Medical English II	【演習】	OD051001	1	
医 歯 学 連 携 演 習	【演習】	OD051304	3	

【前・後期】

時 間	割				
統 合 演 習	I 【演習】	OD051405	6	
臨 床 実 習	【実習】	OD051404	30	

Global Medical English II 【演習】

科目番号 OD051001

前期：15コマ

評価責任者：山田和彦

担当教員：池邊哲郎、加倉加恵、濱中一平、梅崎陽二郎、松崎英津子、加我公行、松本典祥、森田浩光、岡 暁子、香川豊宏、大城希美子、堤 貴司、池田水子、阿部朗子、山田和彦

(一般目標)

臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

VI-3

(教育方法)

英語と日本語で記載された症例を通して課題解決型演習 (PBL) を行う。
(ディスカッション・ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) (実習・演習)

(学習方法)

症例シナリオ (一部英語) をもとにグループでディスカッションを行う。
テーマと議論を体系的に図示した記録 (マインドマップ) を作成する。【単位修得に必要な授業外学習 (予習・復習) 時間：15.0 時間】

(評価)

出席状況、討論の様子、マインドマップの内容を総合的に評価する。
総合評価をポータルサイトに掲示する。

(教科書)

指定なし

(参考書)

指定なし

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
1	4/8	池邊哲郎	ユニット 1	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。①	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
2	4/15	加倉加恵	ユニット 2	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。②	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
3	4/15	濱中一平	ユニット 3	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。③	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
4	4/22	梅崎陽二郎	ユニット 4	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。④	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
5	5/13	加我公行	ユニット 5	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑤	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O S)	DP	予習の項目	必要時間
6	5/20	松本典祥	ユニット6	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑥	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
7	5/27	森田浩光	ユニット7	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑦	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
8	6/3	岡 暁子	ユニット8	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑧	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
9	6/10	香川豊宏	ユニット9	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑨	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
10	6/17	大城希美子	ユニット10	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑩	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
11	6/24	堤 貴司	ユニット11	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑪	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
12	7/1	池田水子	ユニット12	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑫	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
13	7/2	阿部朗子	ユニット13	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑬	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
14	7/3	山田和彦	ユニット14	臨床実習に必要な知識を整理し症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床に必要な基礎的英語力を習得する。歯科医師として習得すべき必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑭	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0
15	7/3	池邊哲郎	ユニット15	臨床実習に必要な知識を整理し国家試験に合格するために、症例を通じて自ら考え臨床推論する方法を身につける。外国人患者に適切に対応するために、臨床実習に必要な英語力を習得し、国家試験に必須の英単語を理解する。	議論を通じて、自ら考え臨床推論することをトレーニングする。国家試験に必須の英単語を説明する。⑮	VI-3	授業前までに実施した臨床実習内容と関連する英単語を想定し確認する。授業で学んだ臨床に必要な英単語を復習する。	1.0

医歯学連携演習 【演習】

科目番号 OD051304

前期：16コマ

評価責任者：森田浩光

池田水子
池邊哲郎
今井裕子
梅崎陽二郎
大島裕司
岡 暁子
加我公行
古賀千尋
佐々木三奈
園田英人
得能智武
鳥巢浩幸
内藤 徹
長岡良礼
西尾 淳
西崎晶子
八田光世
古村南夫
森田浩光
吉永泰周
山野貴史
山田和彦

担当教員：

（一般目標）

口腔医学の観点から歯科診療上重要な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、口腔と全身の関わりを理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-5, Ⅲ-14, Ⅲ-16, Ⅲ-17, Ⅲ-18, Ⅲ-19, Ⅲ-20

（教育方法）

スライドによる解説

授業資料（電子ファイルもしくは印刷物）を用いた解説

（実習・演習）

（学習方法）

moodle上に事前配布された授業資料に目を通し、予習する。

授業に関連した国家試験過去問を確認して復習する。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 13.0 時間】

（評 価）

客観試験を行う。

総合的な評価をポータルサイトに掲示する。詳細は各自が担当教員に質問すること。

（教科書）

指定しない。

（参考書）

指定しない。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/8	得能智武 西崎晶子 山田和彦	歯科診療時の 全身状態の把握	歯科診療時に全身状態を把握する習慣を身につける。	貧血および黄疸を説明する。 末梢血検査データを評価する。 血液生化学検査データを評価する。 肝機能検査結果を評価する。 腎機能検査結果を評価する。 呼吸器系検査結果を評価する。	Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-5	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
2	4/8	池田水子	救急医療	歯科診療上重要な救急時の初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。	AEDIについて説明する。 意識消失した患者の対応と鑑別診断を列挙する。 呼吸困難を訴える患者の対応と鑑別診断を列挙する。 胸痛を訴える患者の対応と鑑別診断を列挙する。	Ⅲ-19 Ⅲ-19 Ⅲ-19 Ⅲ-19	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
3	4/15	得能智武 西崎晶子 大島裕司 池邊哲郎	口腔症状から発見できる全身疾患	口腔症状から発見できる全身疾患を症候別に理解する。	口腔粘膜のびらん・潰瘍性病変から発見できる全身疾患を列挙する。	Ⅲ-18	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					歯肉出血や抜歯後出血から発見できる全身疾患を列挙する。	Ⅲ-18		
					口腔顎顔面領域の疼痛から発見できる全身疾患を列挙する。	Ⅲ-18		
					口腔顎顔面領域の神経学的異常から発見できる全身疾患を列挙する。	Ⅲ-18		
					口腔内の色素沈着から発見できる全身疾患を列挙する。	Ⅲ-18		
4	7/3	得能智武 西崎晶子 今井裕子	歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	心臓の刺激伝導系を説明する。	Ⅲ-17	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					心不全の病態を説明する。	Ⅲ-17		
					不整脈と歯科治療との関係を説明する	Ⅲ-17		
					心不全と歯科治療との関係を説明する	Ⅲ-17		
5	5/13	鳥巢浩幸 岡 暁子	歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	先天性心疾患と歯科治療との関係を説明する。	Ⅲ-19	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					血液・造血管疾患と歯科治療との関係を説明する。	Ⅲ-19		
					悪性新生物と歯科治療との関係を説明する。	Ⅲ-19		
					アレルギー疾患および免疫疾患について説明する。	Ⅲ-17		
6	5/20	得能智武 西崎晶子 吉永泰周	歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	糖尿病患者の歯科治療上の注意点を説明する。	Ⅲ-19	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					歯科治療と関連が深い細菌感染症の病態を説明する。	Ⅲ-19		
					歯科診療時に注意を要する内分泌疾患について説明する。	Ⅲ-19		
7	6/3	古村南夫 加我公行	歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	歯科診療で使用する金属によるアレルギーについて説明する。	Ⅲ-18	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					化学物質によるアレルギーについて説明する。	Ⅲ-17		
					歯科診療をきっかけに診断される皮膚疾患を列挙する。	Ⅲ-17		
8	5/27	古賀千尋	歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	睡眠時無呼吸症候群の病態を説明する。	Ⅲ-17	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					終夜睡眠ポリグラフ検査結果を評価する。	Ⅲ-17		
					睡眠時無呼吸症候群に対する各種治療法を列挙し、口腔内装置の奏功機序と適応基準を説明する。	Ⅲ-17		
					睡眠時無呼吸症候群に対する外科的治療法を説明する。	Ⅲ-17		
9	6/10	園田英人 森田浩光	歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	担当がん患者の歯科治療上の注意点を説明する。	Ⅲ-19	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					免疫不全状態の患者とその歯科治療上の注意点を説明する。	Ⅲ-19		
					周術期の口腔管理を説明する。	Ⅲ-19		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
10	6/17	山野貴史 池邊哲郎	頭頸部領域の 診断と治療	歯科診療上重要な頭頸部領域の主な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、歯科疾患との関わりを理解する。	中耳疾患と顎関節疾患を鑑別する。	Ⅲ-18	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					鼻・副鼻腔疾患と口腔疾患との関連性について説明する。	Ⅲ-19		
					咽頭疾患の病因・病態と診断・治療を説明する。	Ⅲ-19		
					歯科診療時に診断できる頭部腫瘍を列挙する。	Ⅲ-18		
11	6/24	西尾 淳 佐々木三奈	高齢者	加齢・老化に伴い増加する疾患を学び、高齢者の歯科治療上の注意点を理解する。	骨粗鬆症を説明する。	Ⅲ-17	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					骨粗鬆症の治療薬について説明する。	Ⅲ-20		
					顎骨壊死をきたす薬剤を服用する患者への対応を説明する。	Ⅲ-19		
12	6/24	山野貴史 内藤 徹	高齢者	加齢・老化に伴い増加する疾患を学び、高齢者の歯科治療上の注意点を理解する。	高齢者に多くみられる全身疾患を列挙する。	Ⅲ-17	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					高齢者によくみられる病態を学び、その治療と予防を説明する。	Ⅲ-17		
					加齢・老化に伴う臓器の変化と歯科治療上の留意点を説明する。	Ⅲ-17		
					高齢者の嚥下障害の特徴と対応を説明する。	Ⅲ-17		
					認知症の症候、診断と治療を説明する。	Ⅲ-17		
13	7/1	梅崎陽二朗 心療内科	歯科心身症	歯科診療において心身両面への配慮が必要な疾患を理解する。	歯科治療でみられる不安による疾患について説明する。	Ⅲ-16	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					慢性疼痛に対する治療法について説明する。	Ⅲ-18		
					歯科治療恐怖症について説明する。	Ⅲ-16		
					舌痛症について説明する。	Ⅲ-16		
14	7/2	池邊哲郎 長岡良礼	薬理学 1	歯科診療時に処方する、あるいは、他施設において処方されている代表的な薬剤の適応、効能、副作用を学び、特に歯科治療に関連する注意点と対処法を理解する。	肉増殖をきたす薬剤とその適応となる疾患を列挙する。	Ⅲ-20	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					歯の着色をきたす薬剤とその適応となる疾患を列挙する。	Ⅲ-20		
					口腔ジスキネジアを誘発する薬剤とその適応となる疾患を列挙する。	Ⅲ-20		
					口腔乾燥を誘発する薬剤とその適応となる疾患を列挙する。	Ⅲ-20		
15	7/3	山野貴史 園田英人	栄養	栄養管理および評価方法を理解する。	経口摂取困難患者への対応を説明する。	Ⅲ-14	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					栄養状態を評価する。	Ⅲ-14		
					経静脈栄養と経腸栄養の長所・短所を説明する。	Ⅲ-14		
16	4/22	得能智武 西崎晶子 八田光世	薬理学 2	歯科診療時に処方する、あるいは、他施設において処方されている代表的な薬剤の適応、効能、副作用を学び、特に歯科治療に関連する注意点と対処法を理解する。	出血傾向をきたす薬剤を列挙し、その効果、必要性、半減期、対処法を説明する。	Ⅲ-20	moodle上の事前配布資料の熟読	1.0
					降圧薬、抗不整脈薬、強心薬の副作用を説明する。	Ⅲ-20		
					糖尿病治療薬の副作用を説明する。	Ⅲ-20		
					高齢患者の薬物治療における注意点を説明する。	Ⅲ-20		

統合演習 I 【演習】

科目番号 OD051405

通年：120コマ

評価責任者：香川 豊宏

担当教員：分野ごとに表記

(一般目標)

臨床実習生として安全で質の高い思いやりのある歯科医療を行うために必要な知識を修得する。

(教育方法)

歯科医師になるにあたって必要な知識を強化するために講義をする。

過去の国家試験問題の学習範囲を指定し、その範囲に応じた試験を定期的実施する。試験実施後に解説を行い知識の定着を図る。

(実習・演習)

(学習方法)

Answerに記載されている問題を繰り返し学習し知識を定着させること。

知識の定着状況は定期的に行う試験にて確認を行い、疑問点は試験解説授業の受講時に解消すること。

試験解説を聞いても不明な点がある場合には教員に質問を行うこと。

上記方法で一つ一つ疑問を解消し、有機的に知識を深めること。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間： 時間】

(評価)

成績評価の詳細は年度初めに配布する試験実施要領にて確認すること。

成績は試験終了後、個人別に結果を配布する。

(教科書)

特に指定しない

(参考書)

Answer2026

口腔外科学・口腔腫瘍学分野

担当教員	平木昭光、橋本憲一郎、佐々木三奈、勝俣由里、有田英生、池邊哲郎
教育方法	口腔外科の各疾患について、プリントおよびサブノートを使用し、重要な部分を説明する。 その後は、国家試験の過去問を解説する。
事前事後 学習方法	Answer の口腔外科該当問題と全国平均7割以上の国試問題のうちAnswer 学習推奨問題（約850問）を学習し、見開き問題集をみて改変問題に対応する。
参考書	Answer、4年時の配布資料、教科書
関連DP	Ⅲ-10 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病因を説明できる。
	Ⅲ-18 口腔・顎顔面症状を呈する全身疾患について説明できる。
	Ⅲ-19 歯科診療時に留意すべき全身疾患とその全身管理について説明できる。
その他 伝達事項	全国正答率70%以上の問題を克服することを目標とする。

授業計画			
コマ	日時	担当教員	授業内容
1	9月9日（水）	3限 橋本	炎症
2	9月16日（水）	2限 池邊	血液
3	9月30日（水）	1限 平木	菌原性嚢胞、菌原性腫瘍
4	9月30日（水）	2限 勝俣	損傷
5	10月7日（水）	1限 池邊	顎関節疾患
6	10月7日（水）	2限 橋本	唾液腺疾患
7	10月21日（水）	1限 平木	口腔粘膜疾患
8	10月21日（水）	2限 平木	口腔癌
9	10月28日（水）	1限 池邊	先天異常
10	10月28日（水）	2限 有田、池邊	顎変形症
11	11月4日（水）	1限 佐々木	感染、神経、その他

口腔保健学

担当教員	谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、岡田彩子、内藤麻利江、永嶋哲也
教育方法	国家試験の重要な過去出題問題を中心に学修することで、本格的な国家試験勉強に向けての土台を作るとともに、登院実習と国家試験問題との関連性に気づき、実習をより充実させる。
事前事後学習方法	授業内容に対応するAnswer掲載の問題を解き、疑問に思う点を事前に確認しておく。
参考書	新編 衛生学・公衆衛生学（医歯薬出版）、口腔保健・予防歯科学（医歯薬出版）
関連DP	I-3 歯科医療関連法規について説明できる。
	II-1 良識ある医療人としての見識を醸成する。
	III-22 健康と社会・環境の関係および公衆衛生に必要な予防と健康管理について説明できる。
その他伝達事項	

授業計画			
コマ	日時	担当教員	授業内容
1	11月4日	藤本	疫学とその応用、臨床診断の基本（EBM）
2	11月11日	谷口	健康日本21、成人保健・成人歯科保健、産業保健・産業歯科保健
3	11月18日	永嶋	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム、研究倫理
4	11月25日	内藤	母子保健・母子歯科保健、学校保健・学校歯科保健
5	11月25日	島津	医療法・医療計画・医療職・社会保障制度・国民医療費
6	12月9日	谷口	プラークコントロール、指標（プラークコントロール、歯周病）
7	12月9日	島津	介護保険法・歯科口腔保健法
8	12月9日	藤本	人口統計と保健統計、感染症対策
9	12月16日	岡田	健康の保持・増進と予防（スクリーニング）
10	12月16日	藤本	国民栄養と食品保健、環境保健
11	12月23日	島津	国際保健・ヘルスプロモーション・葉機法
12	12月23日	谷口	口臭・歯周病の予防・管理、保健指導、禁煙支援
13	12月23日	内藤	う蝕の予防・管理（フッ化物）、疫学指標（う蝕）

生化学

担当教員	梅津 桂子
教育方法	講義用の資料を配布し、スライドを用いて解説する。配布資料には、①解説する国家試験過去問、ならびに、②過去問を理解するために必要な基本的知識（書き込み用資料）を掲載している。講義中に各自で重要語句を書き込みながら、基本的な知識を確認し直すこと。
事前事後学習方法	講義では自己学習では分かりにくい基本的な用語を中心に解説する。重要なのは講義後に十分に復習して、自己学習での理解を修正したり、知識を体系的に整理し直すことである。
参考書	口腔生化学（医歯薬出版）第5版、Essential細胞生物学（南江堂）
関連DP	Ⅲ-1 生命の分子基盤および細胞の構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-2 人体の基本構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-6 歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面領域の基本構造と機能を説明できる。
その他伝達事項	分かりにくい点、疑問点等は遠慮なく質問して解決することに努めてください。基本的用語については、第5学年の内に理解を進めておくことが大切です。

授業計画			
コマ	日時	担当教員	授業内容
20	6月17日(水) 4限	梅津 桂子	以下の項目について、基本的な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で重要語句を理解する ○結合組織：コラーゲン生合成、細胞接着タンパク質 ○硬組織：主要なタンパク質、石灰化機構
21	6月24日(水) 4限	梅津 桂子	以下の項目について、基本的な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で重要語句を理解する ○血清カルシウム調節：3つのホルモン ○唾液：主要な抗菌因子

臨床実習(共通) 【実習】

科目番号 OD051404A

通年：

評価責任者：香川 豊宏

口腔外科・スポーツ歯科教員
保存・歯周病科教員
口腔インプラント科教員
放射線診断科教員
麻酔科教員

担当教員：総合歯科教員
高齢者歯科教員
小児歯科教員
矯正歯科教員
障害者歯科教員
医科診療科教員

(一般目標)

安全で質の高い、思いやりのある歯科医療を行うために必要な知識・態度・技術を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

Ⅱ-3, Ⅲ-9, Ⅲ-19, Ⅲ-21, Ⅳ-1, Ⅳ-2, Ⅳ-3, Ⅳ-4, Ⅳ-5, Ⅳ-6, Ⅳ-7, Ⅳ-8, Ⅳ-15

(教育方法)

病院・口腔医療センター等の医療現場において、指導医の監督のもと、一般目標に到達できるよう、教育を行う。
(実習・演習) (その他AL)

(学習方法)

病院・口腔医療センター等の医療現場において、指導医の監督のもと、基本診療ケースに記載の行動目標に準じた内容を実施していく。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間： 時間】

(評価)

成績評価及びフィードバックについてはオリエンテーションにて説明を行う。

(教科書)

特に指定しない。

(参考書)

特に指定しない。

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
1			医療面接系	医療面接ができる(患者実習/資源:同意の得られた患者)	挨拶、自己紹介、患者さんの確認ができる 患者さんに適切な態度で接することができる 積極的な傾聴的・共感的態度がとれる 主訴・現症・現病歴をきくことができる 既往歴・常用薬・アレルギーをきくことができる 家族歴・生活環境(喫煙歴等)についてきくことができる 適切に歯式がとれる 訴えの要約ができる 面接の終わりに患者の言い忘れがないか確認できる 指導医に内容を伝達できる	Ⅳ-2 Ⅱ-3 Ⅱ-3 Ⅳ-1 Ⅳ-1 Ⅳ-1 Ⅳ-2 Ⅳ-2 Ⅳ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
2			検査系	基本的検査ができる ①： 全身状態と口腔外の検査ができる (患者実習/資源：同意の得られた患者)	これから基本的検査を行うことを伝えることができる	IV-3		
					全身・顔面・顎の視診ができる	IV-2		
					口腔外(顔面・顎)を適切に触診できる	IV-2		
3			検査系	基本的検査ができる ②： 口腔内および歯の検査ができる (患者実習/資源：同意の得られた患者)	不快感や痛みに対応できる	IV-2		
					視診により口腔粘膜、歯および咬合の検査ができる	IV-3		
					視診により歯ならびに咬合の検査ができる	IV-3		
					適切な触診ができる	IV-3		
					適切な打診ができる	IV-3		
					適切な温度診ができる	IV-3		
					適切な動揺度検査ができる	IV-3		
一次診断ができる	IV-4							
4			検査系	歯周基本検査ができる (ロールプレイ/資源：学生、患者実習/資源：同意の得られた患者)	視診で歯肉状態を確認できる	IV-3		
					ブラーク指数測定ができる	IV-3		
					歯周ポケットプローブを用いてポケットの測定ができる	IV-3		
					プロービング時の出血と排膿が評価できる	IV-3		
				歯周病の診断ができる	IV-6			
5			検査系	口腔内写真および顔面写真の撮影を行うことができる (患者実習/資源：同意の得られた患者、ロールプレイ/資源：学生)	これから行うことを説明できる	IV-3		
					必要な器具が用意できる	IV-3		
					介助者へ指示ができる	IV-3		
					適切な撮影ができる	IV-3		
6			検査系	口内法エックス線検査ができる (シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者)	感染対策ができる	IV-15		
					患者誘導時に本人確認ができる	IV-15		
					これから行うことを説明できる	II-3		
					防護エプロンを装着できる	IV-15		
					頭部を正しく固定できる	IV-3		
					適切なIPの位置づけができる	IV-3		
					IPの保持を正しく指導できる	IV-3		
					患者の安全に配慮した照射筒の操作ができる	IV-3		
					照射筒を正しく設定できる	IV-3		
					患者の様子を注意しながら照射できる	IV-15		
					患者に不快感をあたえることなく、IPを口腔内から取り出すことができる	IV-15		
感光させることなく、IPのスキャンができる	IV-3							

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
7			検査系	診断用模型検査ができる ①：概形印象採得を適切に行うことができる (ロールプレイ/資源：学生、患者実習/資源：同意の得られた患者)	印象用トレーの試適・調整ができる	IV-7		
					印象採得に際して嘔吐反射への対応・配慮ができる	IV-7		
					印象用トレー内を適切に圧接できる	IV-7		
8			検査系	診断用模型検査ができる ②：研究用模型を作製し、咬合状態の検査ができる (ロールプレイ/資源：学生、患者実習/資源：同意の得られた患者)	印象採得後の消毒ができる	III-21		
					印象面に適切に石膏を注入できる	III-21		
					石膏硬化後、印象材から撤去できる	III-21		
					適切にトリミングできる	IV-7		
					咬合状態の確認ができる	IV-7		
9			検査系	診療記録の記載ができる (患者実習/資源：同意の得られた患者)	適切な筆記具を用いて記載した	IV-2		
					他人が見読できる記載を行った (適切な訂正も含む)	IV-2		
					基本事項をもらさず記載した	IV-2		
					所見を漏らさず記載した	IV-2		
					歯式を正確に記載できた	IV-2		
					診察結果をもらさず記載した	IV-2		
					エックス線検査結果を記載した	IV-2		
					病名及び治療方針を記載した	IV-2		
					診療行為をもらさず記載した	IV-2		
					POSによる診療録を作成した	IV-2		
10			説明系	診療に関する説明ができる ①：歯周病について説明ができる (患者実習 / 資源：同意の得られた患者)	説明の開始にあたって、環境を整えることができる	IV-5		
					歯周治療の流れを説明できる	IV-5		
					歯周基本治療の内容を説明できる	IV-6		
					歯周基本検査の結果を基に治療計画を説明できる	IV-4		
					メンテナンスについて説明できる	IV-6		
					説明の終わりに、疑問点を確認できる	IV-5		
					11			
各種の検査結果について説明できる	IV-3							
治療する修復方法について説明できる	IV-4							
メンテナンスについて説明できる	IV-5							
説明の終わりに、疑問点を確認できる	IV-5							

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
12			説明系	診療に関する説明ができる ③：歯質欠損に関する説明ができる（患者実習 / 資源：同意の得られた患者）	説明の開始にあたって、環境を整えることができる	IV-1		
					補綴治療の流れを説明できる	IV-5		
					歯質欠損の原因を説明できる	IV-5		
					補綴方法の説明ができる	IV-5		
					メンテナンスについて説明できる	IV-5		
					説明の終わりに、疑問点を確認できる	IV-1		
13			説明系	診療に関する説明ができる ④：歯の欠損に関する説明ができる（患者実習 / 資源：同意の得られた患者）	説明の開始にあたって、環境を整えることができる	IV-1		
					補綴装置の構造と作用を説明できる	III-9		
					補綴装置装着後の清掃指導ができる	IV-5		
					可撤性補綴装置装着後の取り扱いについて説明できる	IV-5		
					メンテナンスについて説明できる	IV-5		
					説明の終わりに、疑問点を確認できる	IV-1		
14			説明系	診療に関する説明ができる ⑤：基本的な矯正装置の構造・作用と使用時の注意事項を説明できる（患者実習 / 資源：同意の得られた患者）	説明の開始にあたって、環境を整えることができる	IV-5		
					矯正治療の経過を説明できる	IV-5		
					矯正装置の構造と作用を説明できる	IV-5		
					矯正装置使用時の注意事項を説明できる	IV-5		
					説明の終わりに、疑問点を確認できる	IV-5		
15			技能系	処方箋の作成ができる（患者実習/資源：同意の得られた患者）	患者の氏名、年齢を記載または確認できる	IV-4		
					薬名・分量・用法・用量を記載または確認できる	IV-4		
					発行の年月日を記載できる（院外処方の場合）	IV-4		
					病院若しくは診療所の名称及び所在地又は医師の住所を記載し、記名押印または署名した	IV-4		
16			技能系	レジン修復（CR充填・GIC充填）ができる ①：窩洞形成ができる（シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者）	罹患歯質の除去が完全にできる	IV-6		
					適切な窩洞外形の設定ができる	IV-6		
					適切な窩縁斜面が付与できる（CR修復のみ）	IV-6		
17			技能系	レジン修復（CR充填・GIC充填）ができる ②：接着処置ができる（CR修復のみ）（シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者）	処理前に窩洞を乾燥できる	IV-6		
					処理剤を窩洞内だけに塗布できる	IV-6		
					ボンディング剤を正しく乾燥できる	IV-6		
					適切な光照射ができる	IV-6		
					患者の不快感に配慮した操作ができる	IV-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
18			技能系	レジン修復 (CR充填・GIC充填) ができる ③: 充填ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	正しく色調選択ができる	IV-6		
					気泡が混入しないように充填ができる	IV-6		
					適切にCR (GIC) の充填ができる	IV-6		
					適切な光照射ができる (CR修復)	IV-6		
					唾液による汚染がない	IV-6		
					充填量が適切	IV-6		
19			技能系	レジン修復 (CR充填・GIC充填) ができる ④: 形態修正および研磨ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	充填材料と窩縁の移行がスムーズである	IV-6		
					充填材料を切削しすぎしていない	IV-6		
					充填材料表面が滑沢である	IV-6		
20			技能系	口腔衛生指導ができる (患者実習/資源: 同意の得られた患者)	菌垢染色液を用いて、ブランクコントロールレコードを記録・計算できる	IV-3		
					患者に適した歯ブラシを選択できる	IV-5		
					適切なブラッシング指導ができる	IV-5		
					補助的清掃器具の使用法を説明できる	IV-5		
21			技能系	簡単な歯周治療ができる ①: スケーリング・ルートプレーニングができる (ロールプレイ/資源: 学生、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	プローブを用いて、術前のポケット深さ、根面の粗造感を確認できる	IV-6		
					施術部位に対して適切なスクレーラーを選択できる	IV-6		
					スクレーラー刃部を歯面に対して適切な角度で使用できる	IV-6		
					患者の安全に配慮した器具の操作が出来る	IV-6		
					プローブを用いて、術後の根面の粗造感を確認できる	IV-6		
22			技能系	簡単な歯周治療ができる ②: 歯周治療時の生活上の注意事項を患者に伝えることができる (ロールプレイ/資源: 学生、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	口腔清掃の重要性を説明できる	IV-5		
					全身疾患と歯周病の関連を説明できる	IV-5		
					喫煙による影響を説明できる	IV-5		
					食生活の指導ができる	IV-5		
					メンテナンスの重要性を説明できる	IV-5		
23			技能系	簡単な歯周治療ができる ③: 歯周外科手術や拔牙術の後処置ができる (ロールプレイ/資源: 学生、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	患者から術後の経過を聞き取れる	IV-2		
					清潔域に配慮して適切な後処置ができる	IV-2		
					患者の安全に配慮して適切な後処置ができる	IV-2		
24			技能系	簡単な歯内療法ができる ①: ラバーダム防湿ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	クランプの試適ができる	IV-6		
					緊密なラバーダム防湿ができる	IV-6		
					適切にフレームを装着できる	IV-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
25			技能系	簡単な歯内療法ができる ②: 天蓋除去・髄腔開拓ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	咬頭削除に過不足がない	IV-6		
					すべての根管口が目視可能である	IV-6		
					冠部歯質が十分保存されている	IV-6		
					天蓋が完全に除去されている	IV-6		
26			技能系	簡単な歯内療法ができる ③: 根管形成ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	アピカルシートの形成ができる	IV-6		
					必要十分な太さの根管拡大ができる	IV-6		
					ファイルにプレカーブの付与ができる	IV-6		
27			技能系	簡単な歯内療法ができる ④: 根管長測定ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	電氣的根管長測定器の使用ができる	IV-6		
					レントゲンにより根管長の確認できる	IV-6		
					測定結果を適切に記録できる	IV-6		
28			技能系	簡単な歯内療法ができる ⑤: 根管洗浄ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	シリンジを用いて交互洗浄ができる	IV-6		
					根管内乾燥ができる	IV-6		
29			技能系	簡単な歯内療法ができる ⑥: 根管充填ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	適切なマスターポイントの選択と試適ができる	IV-6		
					過不足ない根管充填ができる	IV-6		
					器具 (スプレッター、 プラガー) を適切に使用できる	IV-6		
30			技能系	簡単な歯内療法ができる ⑦: 仮封ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	過不足ない仮封ができる	IV-6		
					緊密な仮封ができる	IV-6		
31			技能系	簡単な固定性欠損補綴処置ができる ①: 支台築造法の選択および実施ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	残存歯質の状態を診査した上で支台築造法を選択できる	IV-7		
					フェールル (帯環効果) を確保した形成が確認できる	IV-7		
32			技能系	簡単な固定性欠損補綴処置ができる ②: 歯冠修復のための支台歯形成および平行性に問題のないブリッジの支台歯形成ができる (シミュレーション実習/資源: マネキン、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	形成面に応じた切削器具の選択ができる	IV-7		
					タービンを適切に使用できる	IV-7		
					適切なタービンの保持ができる	IV-7		
					形成時のフィンガーレストが適切にできる	IV-7		
					歯髄の保護に留意した形成ができる	IV-7		
					ガイドグループの形成ができる	IV-7		
					隣接歯および対合歯との咬合関係、クリアランスの確認ができる	IV-7		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
33			技能系	簡単な固定性欠損補綴処置ができる ③：テンポラリークラウン（ブリッジ）を作製でき、適切に支台歯に仮着することができる（シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者）	作製予定の支台歯表面に分離剤を塗布した	IV-7		
					レジン填入後の既製樹脂冠（レジン塊）の支台歯への圧接が適切にできる	IV-7		
					レジン硬化前に着脱・撤去操作ができる	IV-7		
					テンポラリークラウン（ブリッジ）の調整ができる	IV-7		
					支台歯にテンポラリークラウン（ブリッジ）を仮着できる	IV-7		
34			技能系	簡単な固定性欠損補綴処置ができる ④：精密印象採得を適切に行うことができる（シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者）	印象用トレーの試適・調整ができる	IV-7		
					寒天またはシリコンライトボディを適切に注入できる	IV-7		
					印象用トレー内を適切に圧接できる	IV-7		
35			技能系	簡単な固定性欠損補綴処置ができる ⑤：完成したクラウン（ブリッジ）の試適・調整・装着ができる（シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者）	完成したクラウン（ブリッジ）の両隣接歯の接触状態の確認ができる	IV-7		
					完成したクラウン（ブリッジ）のマージン適合を確認できる	IV-7		
					完成したクラウン（ブリッジ）の咬頭嵌合位での咬合接触の調整ができる	IV-7		
					完成したクラウン（ブリッジ）の偏心運動時での咬合接触の確認ができる	IV-7		
					完成したクラウン（ブリッジ）の装着を行うことができる	IV-7		
36			技能系	簡単な可撤性欠損補綴処置ができる ①：模型診査の結果にもとずいて義歯の設計および支台歯のプレパレーションを適切に実施できる（シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者）	サバイヤーを用いて着脱方向の決定ができる	IV-7		
					サバイヤーを用いてサバイラインを記入できる	IV-7		
					サバイヤーを用いてアンダーカット量を測定できる	IV-7		
					設計に応じたレストシートおよびガイドプレーン形成ができる	IV-7		
37			技能系	簡単な可撤性欠損補綴処置ができる ②：精密印象採得ができる（シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者）	個人トレーの試適・調整ができる	IV-7		
					筋圧形成ができる	IV-7		
					印象採得ができる	IV-7		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
38			技能系	簡単な可撤性欠損補綴処置ができる ③：咬合採得ができる (シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者)	咬合床の試適ができる	IV-7		
					仮想咬合平面の設定ができる (*症例に応じて)	IV-7		
					咬合高径の決定ができる (*症例に応じて)	IV-7		
					リップサポートを確認できる (*症例に応じて)	IV-7		
					標示線の記入ができる (*症例に応じて)	IV-7		
					顔面の色調、形態を観察できる	IV-7		
人工歯の選択ができる	IV-7							
39			技能系	簡単な可撤性欠損補綴処置ができる ④：ろう義歯試適ができる (シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者)	審美性の確認ができる	IV-7		
					咬合関係の確認・調整ができる	IV-7		
					発音の確認ができる	IV-7		
40			技能系	簡単な可撤性欠損補綴処置ができる ⑤：義歯の装着・管理ができる (シミュレーション実習/資源：マネキン、患者実習/資源：同意の得られた患者)	適合試験材を適切に使用できる	IV-7		
					中心咬合位の咬合確認ができる	IV-7		
					偏心位の咬合確認ができる	IV-7		
					定期検診の必要性を説明できる。	IV-7		
41			技能系	バイタルサインの把握ができる ①：脈拍の測定ができる (ロールプレイ/資源：学生、患者実習/資源：同意の得られた患者)	正しい部位、正しい指の使い方で、脈拍数を測定することができる	III-19		
					左右差の有無を確認することができる	III-19		
					不整脈の有無を確認できた	III-19		
42			技能系	バイタルサインの把握ができる ②：血圧の測定ができる (ロールプレイ/資源：学生、患者実習/資源：同意の得られた患者)	上腕の高さを正しく調節できる	III-19		
					上腕動脈の位置を同定できる	III-19		
					マンシェットを正しい位置に、正しい強さで巻くことができる	III-19		
					触診法で収縮期血圧を測定できる	III-19		
					適切に加圧できる	III-19		
					適切に減圧できる	III-19		
					測定値を正しく記載もしくは口頭伝達できる	III-19		
43			技能系	バイタルサインの把握ができる ③：呼吸の測定ができる (ロールプレイ/資源：学生、患者実習/資源：同意の得られた患者)	時計以外の器具を使用せずに、呼吸数を測定できる	III-19		
					パルスオキシメータを使用して、酸素飽和度が測定できる	III-19		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
44			技能系	局所麻酔 (浸潤麻酔) ができる (ロールプレイ/資源: 学生、患者実習/資源: 同意の得られた患者)	浸潤麻酔に必要な器具を選択できる	IV-8		
					患者の全身状態に応じて歯科用局所麻酔カートリッジを選択できる	IV-8		
					注射器を正しく準備できる	IV-8		
					処置に応じたポジショニングができる	IV-8		
					部位や処置に応じて、適切な部位に刺入できる	IV-8		
					清潔、安全性、痛みおよび不快感に配慮した操作ができる	IV-8		
45			技能系	簡単な抜歯ができる (患者実習/資源: 同意の得られた患者)	抜歯の手順と偶発症を患者に説明できる	IV-8		
					抜歯器具の準備ができる (適切なヘーベルと鉗子を選択できる)	IV-8		
					口腔内を消毒できる	IV-8		
					歯周靭帯を切断できる	IV-8		
					ヘーベルを適切に操作できる (持ち方、歯根膜腔への挿入、動かし方)	IV-8		
					ヘーベルの滑脱防止ができる (反対の指をそえる)	IV-8		
					鉗子を適切に操作できる (持ち方、歯頸部の把持、動かし方)	IV-8		
					抜去歯の根尖を確認できる	IV-8		
					抜歯窩を搔爬できる (器具の選択)	IV-8		
					適切な縫合ができる (持針器の扱い方、針と縫合糸の扱い方、糸切りの仕方)	IV-8		
					ガーゼで圧迫止血ができる	IV-8		
					抜歯後の注意を患者に説明できる	IV-8		

臨床実習(保存・歯周病) 【実習】

科目番号 0D051404B

通年：

評価責任者：松崎 英津子、吉永 泰周

担当教員：(保存) 松崎 英津子、松本 典祥、水上 正彦、松本 和磨、廣瀬 陽菜、春名 千英子、久保 至誠、松本明子
(歯周病) 吉永 泰周、大城 希美子、丸尾 直樹、大和 寛明、土持那菜子

(一般目標)

(歯周病) 診療参加型臨床実習を通じて歯周治療の診療技能の向上をはかり、歯周治療の基本的な手技についての知識、技能および態度を習得する。

(保存) 診療参加型臨床実習を通じて歯の保存治療の診療技能の向上をはかり、齲蝕および歯髄疾患・根尖性歯周疾患の治療についての基本的な知識、技能および態度を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

Ⅲ-8, Ⅳ-3, Ⅳ-4, Ⅳ-6, Ⅳ-7

(教育方法)

(歯周病) 診療参加型実習、ポートフォリオ作成、レポート作成

(保存) 診療参加型実習、ポートフォリオ作成、レポート作成

(実習・演習)

(学習方法)

(歯周病)

シラバスに記載している教科書・参考書の該当箇所について予習を行う。

保存・歯周病科外来にて実際の患者の治療の見学や一部診療を行う。

見学した内容についてポートフォリオおよび関連した内容についてレポートを作成する。

実習終了後に作成したポートフォリオおよびレポートについて復習を行う。

(保存)

シラバスに記載している教科書・参考書の該当箇所について予習を行う。

保存・歯周病科外来にて実際の患者の治療の見学や一部診療を行う。

見学した内容についてポートフォリオおよび関連した内容についてレポートを作成する。

実習終了後に作成したポートフォリオおよびレポートについて復習を行う。 【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間：5.0時間】

(評価)

(歯周病)

実習終了時にポートフォリオおよびレポートを評価：ポートフォリオやレポート内容について適宜コメントを行う。

見学ケース数による評価：見学ケース数が少ない場合は通知する。

(保存)

実習終了時にポートフォリオおよびレポートを評価：ポートフォリオやレポート内容について適宜コメントを行う。

見学ケース数による評価：見学ケース数が少ない場合は通知する。

(教科書)

(歯周病)

齋藤淳他編、『臨床歯周病学 第4版』、医歯薬出版、2026(現在の歯周病学、歯周治療学を網羅して編纂された教科書)

(保存)

興地 隆史、石井 信之、北村 知昭、林 美加子 編集主幹『第6版 エンドドンティクス』永末書店、2022(歯内療法学を網羅した教科書)

田上 順次、奈良 陽一郎、山本 一世、齋藤 隆史 監修『第六版 保存修復学21』永末書店、2022(保存修復学を網羅した教科書)

(参考書)

(歯周病)

加藤 照他著、『新版最新歯周病学』、医歯薬出版株式会社、2011(現在の歯周病学、歯周治療学を網羅して編纂された教科書)

天野敦雄他監修、『ビジュアル歯周病を科学する』、クインテッセンス出版、2012(基礎的な内容がしっかり盛り込まれた美しいカラーイラストの本)

(保存)

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会編 「歯内療法学専門用語集 第3版」医歯薬出版 2023

日本歯科保存学会編 「保存修復学専門用語集 第2版」医歯薬出版 2023

回	日	担当者	ユニット	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	DP	予習の項目	必要時間
1		松崎英津子、松本典祥、水上正彦、松本和磨、廣瀬陽菜、春名千英子、久保至誠、松本明子	保存1	歯の隣接面齲蝕の診査及び診断ができる(透照診)	診査内容・方法について患者に説明できる 正しい判定ができる	IV-6 IV-3	教科書の該当箇所を読む(第六版保存修復学21)	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
2		松崎英津子、松本典祥、水上正彦、松本和磨、廣瀬陽菜、春名千英子、久保至誠、松本明子	保存2	歯髄の病態の診査及び診断ができる（歯髄電気診）	診査対象歯の防湿と乾燥が実施できる	IV-6	教科書の該当箇所を読む（第六版保存修復学21）	1.0
					電極への伝導性ペースト付与実施ができる	IV-6		
					歯髄電気診が実施できる	IV-6		
					閾値を対照歯（反対側同名歯など）と比較できる	IV-6		
3		松崎英津子、松本典祥、水上正彦、松本和磨、廣瀬陽菜、春名千英子、久保至誠、松本明子	保存3	直接修復、補修復の術式について理解できる。	診査により修復方法を診断できる	IV-7	教科書の該当箇所を読む（第六版保存修復学21、エントドンティクス第6版）	1.0
					処置前に患部を清掃できる	IV-7		
					適切な窩洞形成を行える	IV-7		
					適切な歯面処理を行える	IV-7		
					適切に光照射ができる	IV-3		
4		吉永泰周、大城希美子、丸尾直樹、大和寛明	歯周病1	歯周病の診断・治療計画の立案ができる	歯周組織破壊に関連する局所的な修飾因子を部位ごとに説明できる	III-8	教科書の該当箇所を読む	1.0
					軽度・中等度・重度歯周炎の分類ができる	IV-6		
					大まかな治療計画の立案ができる	IV-4		
5		吉永泰周、大城希美子、丸尾直樹、大和寛明	歯周病2	歯内・歯周病変の鑑別診断ができる	歯内歯周病変の検査ができる	IV-3	教科書の該当箇所を読む	1.0
					歯内歯周病変の分類ができる	IV-6		

臨床実習(補綴・インプラント) 【実習】

科目番号 0D051404C

通年：

評価責任者： 松浦尚志

加藤加恵*1、谷口祐介*1、柳果*1、松本彩子*1、根木省奈江*1、江頭敬*1、松浦尚志*2、山口雄一郎*2、加我公行*2、高江洲雄*2、都築尊*2、川口智弘*2、吉田兼義*2、前芝宗尚*2、北條朋子*2、濱中一平*2、杉本太郎*3、一志恒太*3

担当教員：

*1 口腔インプラント科
*2 補綴（入れ歯）科
*3 中中坊T室

（一般目標）

安全で質の高い、思いやりのある医療を行うために必要な知識・態度・技術を習得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

IV-7

（教育方法）

診療参加型臨床実習
（実習・演習）

（学習方法）

①教科書を読んでくる。
無歯顎補綴治療学
歯学性のパーシャルデンチャー
クラウンブリッジ補綴学
よくわかる口腔インプラント学

②評価シートの項目を読んで、手順をおぼえてくる。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 8.0 時間】

（評価）

評価シートを用いての評価
ポートフォリオを用いての評価

フィードバック時期：ポートフォリオ確認時。評価入力時
フィードバック方法：ポートフォリオの修正。

（教科書）

なし

（参考書）

なし

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1		全員	補綴・インプラント	インプラント埋入手術の術式を説明できる	インプラント体の埋入部位のマーキングができる	IV-7	よくわかる口腔インプラント学 第4章	1.0
					術野の切開および剥離ができる	IV-7		
					埋入窩を形成し、インプラント体を埋入できる	IV-7		
					完全閉鎖創として縫合ができる	IV-7		
					インプラントの二次手術ができる	IV-7		
2		全員	補綴・インプラント	インプラントの印象採得法を説明できる	印象用コーピングの適合を確認して連結できる	IV-7	よくわかる口腔インプラント学 第4章	1.0
					印象用トレーの試適ができる	IV-7		
					適切な印象採得ができる	IV-7		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
3		全員	補綴・インプラント	フェイスボウを用いて咬合器装着ができる	バイトフォークを適切な位置で咬合させることができる	IV-7	無歯顎補綴治療学 第6章	1.0
					後方基準点の位置関係が適切に設定し、固定できる	IV-7		
					適切に前方基準点を設定できる	IV-7		
					フェイスボウを咬合器に固定できる	IV-7		
					適切に上顎模型を咬合器に装着できる	IV-7		
4		全員	補綴・インプラント	チェックバイト法にて咬合器の顎路調節ができる	患者の中心咬合位、前方および側方位を誘導・確認できる	IV-7	無歯顎補綴治療学 第6章	1.0
					中心咬合位、前方および側方のチェックバイトを採得できる	IV-7		
					矢状前方顎路傾斜の調節ができる	IV-7		
					矢状側方顎路傾斜とベネット角の調節ができる	IV-7		
5		全員	補綴・インプラント	義歯床の破損およびリラインに対する処置ができる	破折片が破折面に適合し、復位するかを確認できる	IV-7	無歯顎補綴治療学 第12章 歯学性のパーシャルデンチャー 第29章	1.0
					破折片を瞬間接着剤で固定できる	IV-7		
					破折線に沿ってレジン築盛のための溝を付与できるまたはレジン新鮮面を出すことができる	IV-7		
					常温重合レジンで築盛できる 必要に応じて筋圧形成ができる	IV-7		
					築盛した部分が移行的になるように削合・研磨できる	IV-7		
6		全員	補綴・インプラント	セラミッククラウンの作製法が説明できる	デジタルワックスアップができる	IV-7	クラウンブリッジ補綴学 VII オールセラミック修復	1.0
					オベーク陶材の築盛ができる	IV-7		
					ポディ陶材の築盛ができる	IV-7		
7		全員	補綴・インプラント	義歯の装着と調整ができる。	適合試験材を適切に使用できる。	IV-7	無歯顎補綴治療学 第16章	1.0
					中心咬合位と偏心位の咬合接触を確認できる。	IV-7		
					義歯の取り扱いについて指導できる。	IV-7		
8		全員	補綴・インプラント	義歯の装着と調整ができる。	現有義歯の問題点を問診できる。	IV-7	無歯顎補綴治療学 第17章	
					義歯と顎堤粘膜の適合を検査できる。	IV-7		
					上下顎義歯の咬合関係を検査できる。	IV-7		

臨床実習(口腔外科・放射線・麻酔・口腔医療センター) 【実習】

科目番号 0D051404D

通年:

評価責任者: 平木昭光*1、香川豊宏*2、池田水子*3、泉 利雄*4

(口腔外科) 平木昭光*1、橋本憲一郎*1、佐々木三奈*1、勝俣由里*1、横尾嘉宣*1、有田英生*1、秋本琢磨*1、丸瀬靖之*1、宮原慧*1

(放射線) 香川豊宏*2、川波 哲*2 筑井朋子*2、吉田祥子*2、三輪邦弘*2、瀬々良介*2、吉浦一紀*2

(麻酔) 池田水子*3、野上堅太郎*3、守永紗織*3、白川由紀恵*3

担当教員: (口腔医療センター) 泉利雄*4、古賀千尋*4、金子高士*4、山本勝己*4、松浦洋志*4、津江文武*4、中村恵子*4、中山敬介*4、横上智*4、土橋佑基*4

*1 口腔外科・スポーツ歯科

*2 放射線診断科

*3 麻酔科

*4 口腔医療センター

(一般目標)

(口腔外科) 口腔外科対象疾患の診断能力を身につけ、治療に必要な態度、知識および基本的な技能を習得する。

(放射線) 顎・口腔領域の疾患の画像検査・画像診断を行うために必要なエックス線撮影技術および読影に必要な態度、知識および基本的な技能を習得する。

(麻酔) 麻酔管理が必要な患者を対象に、安全で質の高い、思いやりのある医療を行うために必要な知識、態度、技能を習得する。

(口腔医療センター) 歯周病、口腔外科、補綴・インプラント領域の診療内容を理解し、治療に必要な態度、知識を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

II-3, III-2, III-18, III-19, III-20, III-21, IV-3, IV-4, IV-5, IV-6, IV-8, IV-14, IV-15, IV-16

(教育方法)

(口腔外科) 診療参加型実習

(放射線) 診療参加型実習

(麻酔) 患者資料(または模擬患者)を用いた麻酔術前と麻酔計画立案

臨床現場での全身麻酔、静脈内鎮静の見学

注射法、気管挿管、笑気吸入鎮静法の口頭試問および基礎実習

一次救命処置(HeartCode BLS for RQI) プログラム実施

(口腔医療センター) 診療参加型実習

(実習・演習)

(学習方法)

(口腔外科)

- ・教科書および参考書の該当疾患箇所の熟読、
- ・4学年時の口腔外科学・口腔腫瘍学の講義ノートおよび配布資料の参照

(放射線)

- ・教科書および参考書の該当疾患箇所の熟読、
- ・4学年時の画像診断学の講義ノートおよび配布資料の参照

(麻酔)

臨床実習までにHeartCode BLS for RQIのe-learningパートを終了する

臨床実習手帳の熟読

教科書の熟読

指導者から与えられた課題について調べる

(口腔医療センター)

- ・教科書の該当疾患箇所の熟読 【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間: 時間】

(評価)

(口腔外科)

- ・客観試験(中間試験、定期試験)、
- ・診断ケースレポート、教授試問、初診ケースレポートを総合的に評価する。

(放射線)

- ・客観試験(中間試験、定期試験)、
- ・画像診断ケースレポート、画像解剖テスト等を総合的に評価する。

(麻酔)

HeartCodeBLS for RQIの認定証取得を合格の条件とする。

提出された麻酔前記録、麻酔記録を用いた実地試験、小テスト結果を総合して成績をつける。

麻酔計画立案では、症例に入る前の発表時に解説を行う。全身麻酔、静脈内鎮静法の問題点があればその都度伝える。基礎実習や相互実習であれば質疑応答により理解度を確認する。

(口腔医療センター)

- ・口頭試問(参加型実習中)、課題レポート等

(教科書)

(口腔外科) カラーアトラス サクシント口腔外科学第3版 学建書院

(放射線) 歯科放射線学 医歯薬出版 第6版

(麻酔) 歯科麻酔・生体管理学 第2版

HeartCode BLS for RQI, Laerdal Medical

(口腔医療センター) 最新歯周病学 医歯薬出版

(参考書)

(口腔外科) 口腔外科学第4版 医歯薬出版、最新口腔外科学第5版 医歯薬出版
 標準口腔外科学第4版 医学書院
 (放射線) 歯科臨床における画像診断アトラス 医歯薬出版
 (麻酔) 歯科麻酔学第8版
 (口腔医療センター) 臨床歯周病学 医歯薬出版

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
1		平木 他	口腔外科	小膿瘍の切開ができる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者)	腫瘍切開の手順と偶発症を患者に説明できる 腫瘍切開の準備ができる (メスの種類、ドレーン) 口腔内を消毒できる 浸潤麻酔ができる (適切な刺入部位、注射速度、薬量、リキャップ) 適切なメスの持ち方ができる 適切な切開線を設定できる 安全にメスを扱うことができる 切開後、膿瘍腔まで鈍感に剥離できる 排膿を確認できる 膿瘍腔を洗浄できる ドレーンを留置できる 術後の注意を患者に説明できる	IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8	普通抜歯と膿瘍について教科書で該当ページを読むこと。	1.0
2		平木 他	口腔外科	外来小手術ができるあるいは手術動画によって外科解剖と術式を理解して手術の介助ができる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者、手術動画)	嚢胞手術、生検の手順と偶発症を患者に説明できる 嚢胞手術、生検に必要な器具を準備することができる 口腔内を消毒できる 浸潤麻酔ができる (適切な刺入部位、注射速度、薬量、リキャップ) 適切な切開線を設定できる 安全にメスを扱うことができるまたは介助ができる 切開後、粘骨膜弁を剥離できる (嚢胞) または介助ができる 嚢胞を摘出できる (嚢胞) または介助ができる 歯根端切除ができる (嚢胞) または介助ができる 切開後組織片の採取ができる (生検) または介助ができる 術後の処置を行うことができる 術後の注意を患者に説明できる	IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8	顎骨嚢胞の種類、Partchの1法、2法、歯根端切除術の手順、生検の意義について教科書の該当ページを読むこと。	1.0
3		平木 他	口腔外科	手術前の手洗いと術衣・グローブの装着が適切にできる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者)	手術場での装備ができる 手指・腕の予備水洗ができる 速乾性手指消毒薬にて適切に手洗いができる 滅菌ガウンを適切に着用することができる グローブの着用ができる	IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8	手洗い方法、消毒法、消毒薬の種類、器具の滅菌方法、清潔・不潔の区別を教科書の該当ページを読むこと。	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
4		平木 他	口腔外科	頭頸部 (口腔・顔面・頸部) と顎関節の診察ができる (学生相互実習 / 資源: 学生、患者実習 / 資源: 同意の得られた患者、術中関節鏡動画)	これから基本的検査を行うことができる 診察に応じた適切なポジショニングができる 顔面の視診ができる 下顎の開口障害の有無を確認できる 顔面の触診ができる リンパ節の触診ができる 診療録に診療内容の記録ができる	IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8	診断学の視診法・触診法、顎関節の解剖、生理、顎関節症の診断法と治療法について教科書の該当ページを読むこと。	1.0
5		平木 他	口腔外科	口腔粘膜の縫合ができる (シミュレーション実習 / 資源: 模型、患者実習 / 資源: 同意の得られた患者)	清潔に配慮しながら滅菌グローブの装着ができる 縫合に必要な器材の選択ができる 縫合器材の操作ができる 手指による縫合ができる 持針器縫合ができる 抜糸ができる	IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8 IV-8	縫合の種類、必要な器具 (針、糸、持針器の種類と用途)、縫合の仕方、抜糸の仕方について教科書の該当ページを読んで縫合できること。	1.0
6		平木 他	口腔外科	服用薬の作用・副作用を調べることができる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者)	患者から服用薬剤を聴取することができる 服用薬の効能を調べることができる 服用薬の副作用を調べることができる 口腔外科の診療や処置に置ける問題点を挙げる 口腔外科の診療や処置での服用薬剤の対応を説明できる	IV-8 III-20 III-20 III-19 III-19	口腔外科の診療に係る医科処方薬の作用機構と副作用について教科書の該当ページを読むこと。	1.0
7		平木 他	口腔外科	口腔外科診療に必要な画像をオーダーし、デジタル画像を読影できる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者のデジタル画像)	適切な画像検査をオーダーすることができる 画像を読影し、説明できる 画像所見から適切な診断を導く	IV-3 IV-5 IV-8	顎骨の透過性病変、不透過性病変、軟組織病変のパノラマ、CT、MRIの画像上の特徴について教科書の該当ページを読むこと。	1.0
8		香川、川波 他	放射線診断科	診断目的にあった口内法エックス線写真が撮影できる。(患者撮影、資源: 口内法エックス線撮影装置、イメージングプレート (IP)、自動画像読取り機、患者)	これから行うことと指示を適切に行うことができた。 頭部を正しく設定できた。 患者の安全に配慮したIPの挿入、取り出し、照射筒の操作ができた。 目的歯にあった照射時間を設定できた。 適切に照射できた。 照射野とIPの位置づけが適切であった。 エックス線照射の水平的角度が適切であった。 エックス線照射の垂直的角度が適切であった。	II-3 IV-3 IV-3 IV-3 IV-3 IV-3 IV-3 IV-3	教科書の該当ページを読むこと	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9		香川、川波 他	放射線診断科	パノラマエックス線撮影ができる（患者実習/資源：同意の得られた患者）	患者誘導時に本人確認ができる	IV-15	教科書の該当ページを読むこと	1.0
					撮影時の注意点を説明できる	II-3		
					患者を安全に装置に誘導できる	IV-15		
					適切な患者の位置づけができる	IV-3		
					断層域を正しく設定できる	IV-3		
					患者の様子を注意しながら照射できる	IV-15		
					患者を安全に固定具から離すことができる	IV-15		
					適切な写真処理ができる	IV-3		
10		香川、川波 他	放射線診断科	単純エックス線写真の読影ができる（読影端末モニターに症例を呈示し読影レポートを作成する/資源：臨床実習用医療情報デジタル化システム）	病変のエックス線所見を読み取ることができる	IV-8	教科書の該当ページを読むこと	1.0
					他者が理解できるように所見を表現できる	IV-8		
					適切な診断ができる	IV-8		
					誤字・脱字なく報告書が書ける	IV-8		
11		香川、川波 他	放射線診断科	典型的所見を呈する疾患のCT写真の読影できる（読影端末モニターに症例を呈示し読影レポートを作成する/資源：臨床実習用医療情報デジタル化システム）	病変の部位を指摘できる	IV-8	教科書の該当ページを読むこと	1.0
					軟組織モードの画像所見が読み取ることができる	IV-8		
					骨組織モードの画像所見が読み取ることができる	IV-8		
					他者が理解できるように所見を表現できる	IV-8		
					適切な診断ができる	IV-8		
					誤字・脱字なく報告書が書ける	IV-8		
12		香川、川波 他	放射線診断科	典型的所見を呈する疾患のMRI写真の読影できる（読影端末モニターに症例を呈示し読影レポートを作成する/資源：臨床実習用医療情報デジタル化システム）	病変の部位を指摘できる	IV-8	教科書の該当ページを読むこと	1.0
					T1強調画像所見が読み取ることができる	IV-8		
					T2強調画像所見が読み取ることができる	IV-8		
					他者が理解できるように所見を表現できる	IV-8		
					適切な診断ができる	IV-8		
					誤字・脱字なく報告書が書ける	IV-8		
13		池田 他	麻酔科	全身麻酔に必要な知識を説明できる（患者実習 / 資源：同意の得られた患者）	絶飲食について説明できる	IV-14	術前診察において診察する項目、注意すべき既往歴、使用する前投薬、使用関連薬剤および周術期管理に至る、全身麻酔の項目について教科書で該当ページを読むこと。	1.0
					使用する器具について説明できる	IV-14		
					気管挿管について説明できる	IV-14		
					経口・経鼻挿管の違いを説明できる	IV-14		
					モニタについて説明できる	III-18		
					使用する薬剤について説明できる	III-18		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
14		池田 他	麻酔科	静脈内鎮静に必要な知識を説明できる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者)	静脈内鎮静の適応症・禁忌症が説明できる	IV-14	術前診察において診察する項目、注意すべき既往歴、使用関連薬剤および周術期管理に至る、静脈内鎮静法の項目について教科書で該当ページを読むこと。	1.0
					至適鎮静度について説明できる	IV-14		
					緩和精神安定薬について説明できる	III-20		
					静脈麻酔薬について説明できる	III-20		
					モニタについて説明できる	IV-16		
					鎮静中の問題点を説明できる	IV-16		
15		池田 他	麻酔科	一次救命処置に必要な知識を説明でき、マネキンを用いて施行できる (シミュレーション実習 / 資源: HeartCode BLS for RQI)	成人、小児、乳児の心肺蘇生の方法を説明できる	III-19	麻酔科後期実習日前日までにHeartCode BLS for RQIのe-learningパートを終了すること。	1.0
					成人/小児の胸骨圧迫を実施できる	III-19		
					HeartCode BLS for RQIプログラムのe-learningパートを終了する	III-19		
					HeartCode BLS for RQIプログラムのスキルパートを終了する	III-19		
16		池田 他	麻酔科	注射法と下顎孔伝達麻酔に必要な基礎知識を説明でき、実習用器具を用いて施行できる (学生相互実習 / 資源: 学生)	皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射の概要を説明できる。	III-20	薬物療法としての注射法の概念、それぞれの種類および手技の項目について教科書で該当ページを読むこと。	1.0
					注射用力マポコに正しい角度で、筋肉内注射を行うことができる。	IV-15		
					下顎孔伝達麻酔の針を刺入する位置を明示できる。	III-20		
					下顎孔伝達麻酔に使用する器具を説明できる。	III-20		
					マネキンに正しく下顎孔伝達麻酔を施行できる。	IV-15		
17		池田 他	麻酔科	気管挿管に必要な基礎知識を説明でき、マネキンを用いて施行できる (シミュレーション実習 / 資源: マネキン)	気管挿管に必要な患者評価項目を5つ挙げ、それぞれについて説明できる。	III-2	気管挿管の概念、経口経鼻挿管の違い、使用する器具および手技の項目について教科書で該当ページを読むこと。	1.0
					喉頭鏡で喉頭展開した視野における解剖学的構造を説明できる。	III-2		
					マスク換気が適切に施行できる。	IV-14		
					経口气管挿管が適切に施行できる。	IV-14		
					経鼻気管挿管が適切に施行できる。	IV-14		
18		池田 他	麻酔科	精神鎮静法に必要な基礎知識を説明でき、笑気吸入鎮静法を施行できる (学生相互実習 / 資源: 学生)	笑気吸入鎮静法の適応症と禁忌症が説明できる	III-19	笑気の物理学的生理学的特徴、笑気吸入鎮静法の適応と禁忌、使用する器具および手技の項目について教科書で該当ページを読むこと。	1.0
					笑気の性質を説明できる	III-20		
					笑気吸入鎮静器とパイピングの安全対策について説明できる	IV-15		
					笑気吸入鎮静器の取扱いができる	III-21		
					笑気と酸素ポンペの残量を測ることができる	III-21		
19		泉 他	口腔医療センター	歯周病の診断・治療法が説明できる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者)	歯周病の診断を説明できる	IV-6	歯周病の診断名・分類 (特に歯周病の新分類) および治療法の概要が説明出来るよう教科書を調べておくこと。	1.0
					歯周病の治療法を説明できる	IV-6		

臨床実習(総合歯科) 【実習】

科目番号 OD051404E

通年：

評価責任者： 山田和彦

担当教員： 山田和彦、柳 絢子、山本 繁、吉田瑞姫

(一般目標)

初診患者の医療面接および、担当教員の診療の補助および実習を行う。基本的な診査、診断を学び、歯科医療を行うための必要な知識・態度・技術を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

IV-1, IV-2, IV-3, IV-4

(教育方法)

教員が学生に対しケースの確認や試問を行い、学生の知識の定着を確認する。初診開始型症例についてのプレゼンテーションを実施し、諮問を行う。

(プレゼンテーション) (実習・演習)

(学習方法)

学生は診療の見学および診療の補助を行い、診療の流れや必要な器具、器材を理解し、歯科治療における基礎を学ぶ。

予習は診療の内容について教科書および参考書にて確認しておく。

復習はケースおよびレポートにより行う。

【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間： 2.0 時間】

(評価)

実習の出席日数およびケースおよびレポートの内容および提出状況により総合的に評価する。また学生のフィードバックはケース、レポート、評価シートの内容を再度、参考に各自確認を行い、自己学習を促す。

(教科書)

なし

(参考書)

なし

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O S)	DP	予習の項目	必要時間
1		全員	総合初診	必要な医療面接の基本的な態度、マナー、知識および技能を身につける。	望ましい基本的な態度(視線、言葉遣い、位置など)を適切にできる。	IV-1	配布資料、講義資料	1.0
					面接への導入(挨拶、名前の確認、自己紹介など)を適切にできる。	IV-1		
					話の進め方(開放型質問、閉鎖型質問)を適切にできる。	IV-1		
					患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。	IV-1		
2		全員	総合初診	必要な医療情報の収集を実施する。	確かな病歴聴取(現病歴、既往歴、家族歴、薬剤歴など)を行い必要な部分を抽出できる。	IV-1	配布資料、講義資料	1.0
					得られた医療情報を分析して、問題点を抽出する。	IV-3		
3		全員	総合初診	適切な診療録記載法を理解する。	診察から得られた所見を適切に診療録に記載できる。	IV-4	配布資料、講義資料	1.0
					SOAPの形式で記載できる。	IV-4		
4		全員	総合初診	治療計画の立案を実施する。	患者に対応した適切な治療方針を立案できる。	IV-2	配布資料、講義資料	1.0
					患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。	IV-4		
5		全員	総合歯科診療	高頻度治療(修復、歯内、歯周、補綴、外科)の器具準備、診療補助、処置を実施する。	一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療および管理を実践できる。	IV-3	配布資料、講義資料	2.0
6		山本	総合歯科	口臭検査(官能検査)を実施する(体験実習/資源:学生、患者実習/資源:同意の得られた患者、臨床実習用医療情報デジタル化システム)	口臭検査を説明する。	IV-3	配布資料、講義資料	1.0
					口臭検査(官能検査)を実施する	IV-3		
					結果を患者に説明する。	IV-4		

臨床実習(高齢者歯科) 【実習】

科目番号 0D051404F

通年:

評価責任者: 内藤 徹

担当教員: 内藤 徹、梅崎陽二朗、竹之下美穂、江頭留依

(一般目標)

高齢者に対して安全で質の高い、思いやりのある歯科医療を行うために必要な知識・態度・技術を習得する。嚥下機能を適切に評価するために必要な知識・態度・技術を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

Ⅲ-13, Ⅲ-14, V-4

(教育方法)

診療参加型臨床実習
介護施設での介護実習
スライド・ビデオによる症例供覧
相互実習(ロールプレイ)
(フィールドワーク)(実習・演習)

(学習方法)

臨床実習水準1から水準4をアドバンス的に選択し実習を行う。実習内容についてシラバスに記載している教科書・参考書等の該当箇所です。予め予習しておくとともに、実習後にその内容を復習し、要点と関連事項をポートフォリオに記載する。経験した症例について、実習後に教科書・参考書等の該当箇所を復習し、要点と関連事項をポートフォリオに記載するとともに、該当する国家試験の過去問題を学習する。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間: 3.0時間】

(評価)

評価シートを用いての評価: 評価後、コメントとともに返却
実習終了時にポートフォリオを評価: ポートフォリオにコメントを記載し返却
口頭試問による評価: 試問中に適宜、コメント
観察記録による評価: 評価後、コメントとともに返却

(教科書)

教科書は指定しない。

(参考書)

内藤 徹、秋竹 純、牧野路子、水谷慎介『高齢者の歯科診療はじめての一步 介護・介助の基本スキル』医歯薬出版、2017. 要介護高齢者の歯科診療に必要な介護技術に特化してわかりやすく解説されている。
日本老年医学会 編集『老年医学系統講義テキスト』西村書店、2013. 老年医学に関する内容と高齢者に多くみられる疾患等について詳しく、臨床を行ううえで有用性が高い。

回	日	担当者	ユニット	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	DP	予習の項目	必要時間
1		全員	高齢者歯科	高齢の患者あるいは介助者に次回の診療内容を説明できる。(患者実習/同意の得られた患者)(学生相互実習/学生)	患者/介助者に挨拶・自己紹介ができる 患者/介助者に適切に診療内容を伝えることができる 患者/介助者からの質問に適切に回答できる	V-4 Ⅲ-13 V-4	介護実習マニュアル(基本実習時に配布)に目を通す。	0.5
2		全員	高齢者歯科	患者の服薬内容の確認ができる。(患者実習/同意の得られた患者)(学生相互実習/学生)	服薬手帳・カルテから服薬内容を確認できる 当該薬の作用を説明できる 当該薬の歯科治療上の注意点を説明できる	V-4 V-4 Ⅲ-14	介護実習マニュアル(基本実習時に配布)に目を通す。	0.5
3		全員	高齢者歯科	高齢者の嚥下機能スクリーニングを行うことができる。(患者実習/同意の得られた患者)(学生相互実習/学生)	患者さんに対して検査の内容を説明できる RSST(もしくは改訂水飲みテスト、嚥下嚥診、フードテスト)を実施できる 嚥下リスクの判定が行える	Ⅲ-13 Ⅲ-13 Ⅲ-13	介護実習マニュアル(基本実習時に配布)に目を通す。	0.5
4		全員	高齢者歯科	高齢者の嚥下機能リハビリテーションを行うことができる。(患者実習/同意の得られた患者)(学生相互実習/学生)	患者さんに対してリハビリテーションの内容を説明できる いずれかの間接訓練が実施できる	Ⅲ-14 Ⅲ-14	介護実習マニュアル(基本実習時に配布)に目を通す。	0.5

臨床実習(矯正歯科) 【実習】

科目番号 0D051404G

通年：

評価責任者：玉置幸雄 *1

阿部朗子*1、梶原弘一郎*1、石井太郎*1、中嶋宏樹*1、竹崎公章*1

担当教員：

*1 矯正歯科

(一般目標)

安全で質の高い、思いやりのある歯科医療を行うために必要な知識・態度・技術を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

IV-2, IV-9

(教育方法)

診療参加型実習、実習帳による示説、スライドによる症例供覧、Moodle上のe-learning・確認テスト、相互実習(ロールプレイ)(ディスカッション・ディベート)(グループワーク)(プレゼンテーション)(実習・演習)

(学習方法)

臨床実習水準Ⅰから水準Ⅱをアドバンス的に選択し実習を行う。実習内容についてシラバスに記載している実習帳の該当箇所ですべて予習しておく。実習後に教科書や第4学年時の講義プリントで該当箇所を復習する。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間：8.0時間】

(評価)

評価シートを用いての評価：評価後、コメントとともに返却
客観試験(中間試験、定期試験)による評価：試験後、質問を受け付ける
ポートフォリオを用いての評価：作成過程および返却時にコメント
口頭試験による評価：試験中に適宜、コメント

(教科書)

後藤滋己、齋藤 功、西井 康、榎 宏太郎、森山啓司、山城 隆 他編『歯科矯正学 第7版』、医歯薬出版、2024

(参考書)

William R. Proffit著、高田健治訳、『新版 プロフィットの現代歯科矯正学』、クインテッセンス出版、2004

(歯学生から専門医までを対象に歯科矯正学の理論をわかりやすく解説した本)

西井 康、新井一仁他著、『歯科矯正学エッセンシャルテキスト』、永末書店、2023

(歯科矯正学の講義の理解を助け、知識の整理をするための本)

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
1		全員	矯正歯科実習 (臨床実習 I)	口腔内診査から歯列・咬合異常の有無を判定できる。	これから行うことを説明できる。	IV-2	臨床実習Ⅰ実習帳16、18、19頁を予習する。	1.0
					歯齢を判定できる。	IV-2		
					個々の歯の位置異常を判定できる。	IV-2		
					歯列弓形態を判定できる。	IV-2		
					前歯部被蓋を評価できる。	IV-2		
					大臼歯関係を判定できる。	IV-2		
異常嚥下癖の有無を判定できる。	IV-2							
2		全員	矯正歯科実習 (臨床実習 I)	顔面診査から顔面の対称性とFacial typeを判定できる。	これから行うことを説明できる。	IV-2	臨床実習Ⅰ実習帳14、15、18、19頁を予習する。	1.0
					Facial type を判定できる。	IV-2		
					顔面の対称性を判定できる。	IV-2		
					口唇閉鎖不全の有無を判定できる。	IV-2		
3		全員	矯正歯科実習 (臨床実習 I)	セファロ分析の基本的計測項目の計測を行うことができる。	計測点をトレース上に設定できる。	IV-9	臨床実習Ⅰ実習帳20~28頁を予習する。	1.0
					平面をトレース上に設定できる。	IV-9		
					基本的計測項目を計測できる。	IV-9		
					計測結果をポリゴン表に記入できる。	IV-9		
					セファロ分析結果を評価できる。	IV-9		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4		全員	矯正歯科実習 （臨床実習 Ⅱ）	口腔模型の分析およびセ ファロ分析を行い、結果を 評価できる。	セファログラムから顎顔面領域の 構造をトレースできる。	IV-9	臨床実習Ⅱ実習帳 8～14 頁を予習する。	1.0
					セファロ分析の基本的計測項目の 計測を行い、計測結果をポリゴン 表に記入できる。	IV-9		
					セファロ分析結果を評価できる。	IV-9		
					口腔模型の計測ができる。	IV-9		
					口腔模型の計測結果を分析表に記 入できる。	IV-9		
					口腔模型の分析結果を評価でき る。	IV-9		
					アーチレングスディスクレパン シーを算出できる。	IV-9		
5		全員	矯正歯科実習 （臨床実習 Ⅱ）	指導医とともに診断と治療 方針の立案を行うことがで きる。	指導医のもと検査記録にもとづい て問題点をリストアップするこ とができる。	IV-9	教科書 263～335、3 45～361頁を予習す る。	1.0
					指導医のもと治療方針の立案がで きる。	IV-9		
					問題点リストと治療方針との関連 を確認できる。	IV-9		
6		全員	矯正歯科実習 （臨床実習 Ⅱ）	成長発育期の患者の口腔内 診査および顔面診査ができ る。	これから行うことを説明できる。	IV-9	臨床実習Ⅱ実習帳 2～4頁 を予習する。	1.0
					顔面の対称性を判定できる。	IV-9		
					Facial type を判定できる。	IV-9		
					歯齢を判定できる。	IV-9		
					前歯部被蓋を評価できる。	IV-9		
					ターミナルプレーンを判定でき る。	IV-9		
					異常嚥下癖の有無を判定できる。	IV-9		
					軟組織の異常の有無を判定でき る。	IV-9		

臨床実習(小児歯科) 【実習】

科目番号 OD051404H

通年：

評価責任者：岡 暁子

担当教員：岡 暁子、柏村晴子、熊谷徹弥、石井華子、三輪佳愛、田口雅英
臨床教授：石井 香、久保山博子、柳田憲一

(一般目標)

小児を対象とした一般的なう蝕治療とう蝕予防および対応法を習得する。
主訴に対する問診の方法を修得する。
口腔内の問題に応じた検査方法を選択できる。
不協力的な小児への対応法として行動変容の基本を学ぶ。
小児の口腔内の基本的な診査を修得する。
フッ化物塗布、予防填塞の基本的技術を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

Ⅱ-3, Ⅲ-12, IV-10

(教育方法)

相互実習による予防填塞材の塗布などの予防実習
症例資料に対する診断治療計画の作成
ケースレポート
参加型臨床実習
(ディスカッション・ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) (実習・演習)

(学習方法)

小児歯科実習帳と教科書を熟読しケースレポートを作成する。
相互実習内容を予習しておく。
参加型臨床実習の患者の治療方法術式について復習する。 【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間： 3.0 時間】

(評価)

ケースレポート作成点、相互実習点、教授試問点
実習最終日に担当教員が実習内容の評価およびフィードバックを行う。

(教科書)

白川哲夫・福本 敏・岩本 勉・森川和政 編：小児歯科学 医歯薬出版第6版(小児歯科全般の内容がわかりやすくカラーで解説されている)
白川哲夫 他編集：小児歯科学基礎・臨床実習 医歯薬出版第3版

(参考書)

パーフェクトマスター小児歯科学 第5版 医歯薬出版：(ポケットサイズで分かり易く解説されている)

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O S)	DP	予習の項目	必要時間
1		全員	小児歯科実習 (臨床実習1)	フッ化物塗布ができる(水準1)(相互実習 / 資源：学生、患者実習 / 資源：同意の得られた患者)	フッ化物塗布の目的を説明できる これからフッ化物を塗布することを患児に伝達することができる	Ⅲ-12 Ⅱ-3	小児歯科実習帳と教科書を熟読する。相互実習内容を予習する。	1.0
					コットンロールを使って簡易防湿ができる	IV-10		
					適切な歯面乾燥ができる	IV-10		
					適切なフッ化物塗布ができる	Ⅱ-3		
					不安軽減のための声かけができる	Ⅱ-3		
					フッ化物塗布後の注意点を伝えることができる	Ⅲ-12		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
2		全員	小児歯科実習 (臨床実習I)	予防填塞ができる（水準 1）（相互実習 / 資源： 学生、患者実習 / 資源： 同意の得られた患者）	これから予防填塞を行うことを患 児に伝達することができる	II-3	小児歯科実習帳と教科書を 熟読する。相互実習内容を 予習する。	1.0
					防湿（ラバーダム、Z00、簡易） ができる	IV-10		
					適切な歯面清掃ができる	IV-10		
					適切なエッチングと水洗乾燥がで きる	IV-10		
					適切な予防填塞ができる	IV-10		
					不安軽減のための声かけがで きる	II-3		
					一連の処置が安全にできる	IV-10		
					予防填塞後の注意点を伝えること ができる	III-12		
3		全員	小児歯科実習 (臨床実習II)	小児の定期診査時における 口腔内診査ができる（水準 1）（相互実習 / 資源： 学生、患者実習 / 資源： 同意の得られた患者）	正しく歯を染めだすことができる	IV-10	小児歯科実習帳と教科書を 熟読する。相互実習内容を 予習する。	1.0
					歯垢の付着状況を診査できる	IV-10		
					軟組織の診査ができる	IV-10		
					咬合を正しく診査できる	IV-10		
					乳歯・永久歯を正しく診査するこ とができる	IV-10		
					齲蝕の診査が正しくできる	IV-10		
					問題点を列記しそれぞれの治療計 画を説明できる	IV-10		

臨床実習(障害者歯科) 【実習】

科目番号 0D051404I

通年：

評価責任者： 森田浩光

森田浩光

担当教員： 天野郁子

田崎園子

(一般目標)

障害者を対象に安全で質の高い、思いやりのある医療を行うために必要な知識、態度、技能を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

IV-4, IV-6, IV-12, IV-15

(教育方法)

患者資料を用いた診断と治療計画立案

臨床現場でのスタンダードプレコーション・清潔操作の実践

診療参加型臨床実習

(ディスカッション・ディベート) (プレゼンテーション) (実習・演習)

(学習方法)

臨床実習手帳の熟読

障害者歯科臨床実習マニュアルの熟読

身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の特徴と対応法を復習

配当された患者を対象に口腔内診査、歯科保健指導、診療補助の実施

指導者から与えられた課題のまとめ 【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間： 3.5時間】

(評価)

提出された治療計画書、評価シートを用いた観察記録、実地試験、小テスト結果を総合して成績をつける。

治療計画立案では、発表時に解説を行う。

スタンダードプレコーション・清潔操作の実践では、問題点があればその都度伝える。

診療参加型実習では、毎回の診療後に少なくともひとつの質疑応答により理解度を確認する。

(教科書)

指定しない。

(参考書)

指定しない。

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O S)	DP	予習の項目	必要時間
1		全員	障害者歯科	スタンダード・プレコーションが実践できる。	ゴーグルを正しく着用した	IV-15	スタンダードプレコーション	0.5
					マスクを正しく着用した	IV-15		
					正しく手洗いをした(グリッターバグで判定する)	IV-15		
					未滅菌グローブを正しく装着した	IV-15		
					グローブを正しくはずした	IV-15		
					グローブを分別廃棄した	IV-15		
					グローブ破棄後に手洗いをした	IV-15		
2		全員	障害者歯科	診療で清潔な操作ができる。	診療前に器具・材料の清潔な取り扱いで診療の準備ができた	IV-12	歯科における院内感染防止対策ガイドライン	0.5
					个人防护を行った	IV-15		
					診療中に器具・材料の清潔な取扱いができた	IV-15		
					洗浄・滅菌コーナーに正しく治療器具を片付けることができた	IV-15		
					グローブを分別廃棄した	IV-15		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
3		全員	障害者歯科	障害者の歯科治療計画が立案できる。	問診表の内容を把握した	IV-4	障害者の歯科診療における行動調整法	0.5
					疾患（障害）、常用薬に関連した注意事項を把握した	IV-4		
					歯科疾患を正しく診断し、治療計画を立案できた	IV-4		
					障害者の歯科治療上の問題点を把握した	IV-4		
					障害者の口腔管理上の問題点を把握した	IV-4		
					各種行動調整法の利点・欠点を理解した	IV-4		
4		全員	障害者歯科	障害者の口腔内状態の診察ができる。	診療録から必要な情報を確認した	IV-12	脳性麻痺、Down症候群、自閉スペクトラム症の歯科的特徴と歯科診療における留意事項	0.5
					患者に対して開口や顔の向きなどの必要な指示ができた	IV-12		
					現在歯を正しく判定した	IV-12		
					齲蝕の有無と重症度を正しく判定した	IV-12		
					歯の形態異常・石灰化不全の有無を正しく判定した	IV-12		
					歯肉の状態を正しく判定した	IV-12		
					口腔軟組織の異常の有無を正しく判定した	IV-12		
					咬合の状態を正しく判定した	IV-12		
5		全員	障害者歯科	障害者のブラーク指数を測定し、歯科保健指導ができる。	診療録から必要な情報を確認した	IV-6	障害者への対応法（TSD法や系統的脱感作）および行動変容技法（レスポナント技法やオペラント技法）	0.5
					口腔内の状態を確認した	IV-6		
					染め出しをして歯垢付着部位をチェックできた	IV-6		
					歯垢付着部位を本人に伝えた	IV-6		
					患者に合わせてブラッシング方法を指導した	IV-6		
6		全員	障害者歯科	障害者の歯科治療時の対応と介助ができる。	診療録から必要な情報を確認した	IV-12	脳性麻痺、Down症候群、自閉スペクトラム症の歯科的特徴と歯科口腔保健上の留意事項	0.5
					診療台への誘導または移動させた	IV-12		
					疾患（障害）に合わせた診療環境および診療体勢を整えた	IV-12		
					顔または手、足の動きの抑制を行った	IV-12		
					治療終了後に患者を安全に誘導した	IV-12		
7		全員	障害者歯科	障害者のホームケアの指導ができる。	補助的清掃用具の使用と介助磨きの有無を確認した	IV-6	脳性麻痺、Down症候群、自閉スペクトラム症の患者への対応法	0.5
					歯磨きをする時間帯とかける時間を確認した	IV-6		
					習慣的に摂取する食物・飲料と、間食の取り方について確認した	IV-6		
					口腔清掃状態の問題点を伝えた	IV-6		
					齲蝕予防の点から注意することを伝えた	IV-6		
					歯周疾患予防の点から注意することを伝えた	IV-6		
					理解を確認しながら注意点への指導を進めた	IV-6		

臨床実習(口腔保健) 【実習】

科目番号 0D051404J

通年:

評価責任者: 谷口奈央

担当教員: 谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、岡田彩子、矢田部尚子

(一般目標)

安全で質の高い、思いやりのある歯科医療を行うために必要な知識・態度・技術を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

I-9, IV-6, IV-10, V-4

(教育方法)

患者見学実習・学生相互実習、保健センター実習、協力歯科医院実習、キャリアプランニング演習、臨床実地体験実習
(ディスカッション・ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) (フィールドワーク) (実習・演習)

(学習方法)

患者見学実習・学生相互実習、市町村保健センター実習、協力歯科医院実習、キャリアプランニング演習、臨床実地体験実習
口腔保健学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書および配布した資料の該当箇所を用いて予習する。これらに加えて実習で使用した実習帳を用いて復習する。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間: 2.0時間】

(評価)

チェックリスト、ポートフォリオ、諮問、ペーパー試験。
ペーパー試験は、試験後に教員が解説し、フィードバックする。
他は、授業日の最後に教員が確認しフィードバックする。

(教科書)

1. 安井利一、山下喜久、廣瀬公治、小松崎明、山本龍生、弘中祥司 編、「口腔保健・予防歯科学」第2版、医歯薬出版、2022
2. 臨床実習(口腔保健)実習帳

(参考書)

なし

回	日	担当者	ユニット	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	DP	予習の項目	必要時間
1		谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、岡田彩子、矢田部尚子	臨床実習(口腔保健・予防歯科)①	OHI検査を行い結果を説明できる(学生相互実習/学生、検査器材)	OHIの検査手順を説明できた。 OHIに必要な器材を準備できた。 OHI検査を行い結果の説明ができた。	IV-6 IV-6 IV-6	口腔保健学Ⅰ・Ⅱで学習した教科書および配布物の該当箇所に目を通す	1.0
2		谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、岡田彩子、矢田部尚子	臨床実習(口腔保健・予防歯科)②	地域医療における臨床予防歯科の導入を計画できる(外部施設実習/福岡市内協力歯科医院 つきやま歯科医院)	地域医療における臨床予防歯科のフローを実体験できた。 地域医療におけるライフコース別の予防処置の現場を実体験できた。 地域医療におけるライフコース別の予防ガイドスの現場を実体験できた。	V-4 V-4 V-4	口腔保健学Ⅰ・Ⅱで学習した教科書および配布物の該当箇所に目を通す	1.0
3		谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、岡田彩子、矢田部尚子	臨床実習(口腔保健・予防歯科)③	母子の歯科健康診査・保健指導ができる(外部施設実習/福岡市西区保健福祉センター)	保健センター等公衆衛生活動の現場を実体験できた。 1歳6か月児健診のフローを実体験できた。 1歳6か月児歯科健診における判定・リスク診断・保健指導の現場を実体験できた。	IV-10 IV-10 IV-10	口腔保健学Ⅰ・Ⅱで学習した教科書および配布物の該当箇所に目を通す	1.0
4		谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、岡田彩子、矢田部尚子	臨床実習(口腔保健・予防歯科)④	学校での歯・口腔の健康診断を実施できる(学生相互実習/学生、検査器材)	健診の準備ができた。 健診に用いる記号を用いて検査結果を記録できた。 事後措置を判定できた。	V-4 V-4 V-4	口腔保健学Ⅰ・Ⅱで学習した教科書および配布物の該当箇所に目を通す	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
5		谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、岡田彩 子、矢田部 尚子	臨床実習（口 腔保健・予防 歯科）⑤	成人（職域）歯科検診を実 施できる（学生相互実習/ 学生、検査器材）	検診の準備ができた。	V-4	口腔保健学Ⅰ・Ⅱで学習し た教科書および配布物の該 当箇所に通す	1.0
					検診に用いる記号を用いて検査結 果を記録できた。	V-4		
					事後措置を判定できた。	V-4		
6		谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、岡田彩 子、矢田部 尚子	臨床実習（口 腔保健・予防 歯科）⑥	ライフコース別の保健指導 ができる（体験実習/説明 媒体）	ライフコース別の歯・口腔の健康 問題を体験できた。	I-9	口腔保健学Ⅰ・Ⅱで学習し た教科書および配布物の該 当箇所に通す	1.0
					ライフコース別の口腔保健指導を 体験できた。	I-9		
					ライフコースアプローチを踏まえ た歯・口腔の健康づくりを説明で きた。	I-9		

臨床実習(総合医学) 【実習】

科目番号 OD051404K

後期:

評価責任者: 得能 智武、柴田 舞欧、園田 英人、山野 貴史、大島 裕司、鳥巢 浩幸、西尾 淳、古村 南夫、萩家 康弘

(内科) 得能智武、京極幸子、西崎晶子
(心療内科) 柴田舞欧、田中佑
(外科・内視鏡センター) 園田英人、中島秀仁、中司悠口
(耳鼻咽喉科) 山野貴史、縫田竜青、川本健介

担当教員: (眼科) 大島裕司、姫野夏季、平田三知花、中村武彦
(小児科) 鳥巢 浩幸、奥園清香、一宮優子
(整形外科) 西尾淳、千々岩芳朗、篠原由紀
(皮膚科) 古村南夫
(形成外科) 萩家康弘

(一般目標)

(内科) 口腔医学を実践できる歯科医師となるために、必要な内科的知識・診察態度・診察技能を習得する。
(心療内科) 全人的医療の実践のために必要な、心身相関に関する知識と理解を深める。
(外科・内視鏡センター) 口腔医学の観点から歯科診療に必要な医科疾患の診断・治療を学び、口腔と全身の関わりを理解する。
(耳鼻咽喉科) 耳鼻咽喉科診療について一般的に必要な知識を習得する。
(眼科) 歯科診療に必要な基本的な眼科診察法、手術に関する知識を習得する。
(小児科) 小児の診療に必要な知識、態度を習得する。
(整形外科) (1) 関節の構造と病態の説明ができる。(2) 整形外科の保存的治療手技を行うことができる。
(皮膚科) 粘膜や皮膚の色素性病変の診察、診断に必要な基礎知識、態度、技能を習得する。
(形成外科) マイクロサージャリーに対する理解を深め、今後の歯科医療に有意義に活用するために実際に経験して基本的知識を身に付け、血管模型を用いて顕微鏡操作下に血管縫合できるようにする。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

I-4, II-1, II-3, II-4, III-2, III-16, III-17, III-21, IV-1, IV-2, IV-3, IV-4, IV-8, IV-13, IV-15, IV-17

(教育方法)

(内科) 内科に入院中の患者さんの診察を通じて、内科的診察と内科疾患の理解を深める
(心療内科) ストレス負荷による自律神経系の変化の体験的学習: バイオフィードバックや自律訓練、心理テストの実施
(外科・内視鏡センター) 実習、レポート作成
(耳鼻咽喉科) 耳鼻咽喉科ユニットを用いての診察方法、聴力、平衡検査について体験する。
(眼科) 臨床現場での眼科診察、手術を見学する
(小児科) 小児科外来での診療現場の見学 グループディスカッション 検査実習
(整形外科) (1) 骨関節疾患の症例について説明し、同意の得られた患者の手術見学(関節鏡視学を含む)を行う。(2) 整形外科の基本的治療手技を選び、体験させる。
(皮膚科) 学生同士で皮膚の色素性病変の観察、診断を行う。
(形成外科) 口腔内顕微鏡を用いてマイクロサージャリーの実践的な練習を行う。
(ディスカッション・ディベート) (実習・演習)

(学習方法)

(内科) 臨床実習手帳の熟読、教科書の予習
(心療内科) 心身相関の概念、自律神経系、および心理生理学的検査法について調べる。
(外科・内視鏡センター) 診療・検査・手術の見学やビデオでの手技を理解し、歯科治療における基礎を学ぶ。
予習は2年、3年での医科の講義資料および参考書にて確認しておく。
(耳鼻咽喉科) 実際の診察器具や検査装置を用いる。
(眼科) 眼科診察、手術見学における担当教員からの説明・指導
(小児科) 実習時に配布する資料を熟読する
(整形外科) (1) 整形外科外来にて症例について説明し、手術室であるいは実習室のモニターで手術を見学する。(2) 整形外科外来またはリハビリテーション室にて学生のロールプレイにより治療を体験させる。
(皮膚科) 学生同士によるロールプレイ型臨床実習を行う。
皮膚・口腔粘膜の色素性病変の肉眼的観察法、ダーモスコピー検査法について学習する。
学生同士で複数の皮疹をダーモスコブにて観察後に写真撮影し記録する。
ダーモスコピー検査により得られた画像の所見をケースレポートに準じたレポートにまとめる。
(形成外科) 一定の時間内(約20分)に直径約3mmの動脈血管模型で10-0ナイロン糸を用いて顕微鏡下に少なくとも1針吻合する。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間: 時間】

(評価)

(内科) 入院患者の内科的問診・診察を正しく行えるかを評価する。また、患者の内科的病態を正確に把握できるかを評価する。
(心療内科) 実習態度、レポート
(外科・内視鏡センター) 実習の出席および実習態度およびレポートの内容および提出状況により総合的に評価する。
(耳鼻咽喉科) 質疑応答と評価シートを用いる。
(眼科) 担当教員による実習態度の評価
(小児科) 外来見学時の態度、ディスカッションでの質疑応答、検査実習態度により評価する
(整形外科) (1) または(2)について、質疑応答を行い、理解度を確認する。
(皮膚科) 提出されたレポート、評価シートを用いた観察記録、写真撮影の実地試験の結果を総合的に勘案して成績をつける。
(形成外科) 顕微鏡操作・マイクロサージャリーに用いる器具の適切な扱い・血管模型の吻合操作・実習中の態度や安全性特に吻合針に対する配慮、この4項目について実習中に教官が評価する。疑問点や重要ポイントについては実習中の指導・質疑応答で解決し理解する。

(教科書)

なし

(参考書)

(内科) 「わかりやすい内科学」第4版、文光堂、2014、「内科学」第12版、朝倉書店、2022

(心療内科) 心身医学標準テキスト 第3版 (医学書院)

(外科・内視鏡センター) 2年、3年での医科の講義資料および参考書

(小児科) なし (資料を配布する)

(皮膚科) 歯科医のための皮膚科学 第3版、山根源之編、医歯薬出版、2023、ダーモスコピー超簡単ガイド改訂2版、田中 勝、学研メディカル秀潤社、2020

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
1		得能、京極、西崎	内科	内科疾患の間診・診察ができる (患者実習 / 資源: 同意の得られた患者)	コミュニケーションが取れる	II-4	「内科学Ⅰ、内科学Ⅱ」の講義資料に目を通しておく。	1.5
					適切な態度が取れる	II-3		
					必要な質問項目を尋ねる	IV-1		
					正しい服装で診察できる	II-1		
					基本的な内科診察ができる	III-17		
2		柴田、田中	心療内科	心身相関を理解し、心理面に配慮した医療面接について学ぶ (学習方略: ロールプレイ / 資源: 学生)	心療内科における生理検査法や治療法を通して、心身相関について理解する	III-16	「精神医学・心身医学」の講義資料に目を通しておく。	1.5
					面接法の演習を通して、患者の心理面に配慮した医療面接について理解する	III-16		
3		園田、泉、中司	外科	外科基本手技を行うことができる (ロールプレイ / 資源: 学生)	基本的な系結びができる	IV-13	外科学、臨床医学概論の講義資料とOSCEでの縫合などの手技を再度目を通す。	1.5
					手指消毒ができる	IV-15		
					皮膚消毒法を説明できる	IV-15		
4		山野、縫田、川本	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科診察 (視診、触診) ができる (ロールプレイ / 資源: 学生)	外耳、鼓膜の視診ができる	IV-2	「耳鼻咽喉科学」の講義資料に目を通しておく。	1.5
					鼻腔の視診ができる	IV-2		
					口腔、咽頭の視診ができる	IV-2		
					頸部の触診ができる	IV-2		
				簡易聴力検査および簡易平衡検査ができる (ロールプレイ / 資源: 学生)	簡易聴力検査ができる	IV-2		
					簡易平衡検査ができる	IV-2		
5		大島、姫野、平田、中村	眼科	基本的な眼科診察法や検査の意義を説明できる。(眼科検査相互実習/ 資源: 学生)	細隙灯顕微鏡検査	IV-17	「眼科学」の講義資料のうちドライアイ、白内障について目を通しておく	1.5
					眼圧検査	IV-17		
					眼底検査	IV-17		
				涙液分泌機能検査	IV-17			
				基本的な眼科手術、局所麻酔の方法を説明できる。(手術見学 / 資源: 同意の得られた患者)	眼科手術における局所麻酔	IV-17		
白内障手術	IV-17							
6		鳥巢、奥園、一宮	小児科	基本的な小児の診察法と検査法を理解する。(見学、ロールプレイ/ 資源: 学生、同意の得られた患者)	小児の発熱の原因	III-17	「小児科学」の講義資料に目を通しておく	1.5
					態度	II-3		
					情報収集	IV-1		
					診察	IV-2		
				基本的な小児のアレルギー疾患や検査の意義を説明できる。(アレルギー検査相互実習/ 資源: 学生)	検査	IV-3		
					アレルギー疾患の知識	III-17		
					プリックテスト	IV-3		
					基本的なけいれん性疾患や検査の意義を説明できる。(脳波検査実習/ 資源: 学生)	けいれん性疾患の知識		
脳波検査	IV-3							

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間		
7		西尾、千々岩、篠原	整形外科	関節の構造と病態の説明ができる (手術見学 (関節鏡視見学を含む) / 資源: 同意の得られた患者)	関節の正常な構造を説明できる 関節疾患の異常所見を説明できる 関節疾患の診断とその根拠を説明できる 関節疾患の治療法を説明できる	Ⅲ-2 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	「整形外科学」の講義資料に目を通しておく	1.5		
			整形外科の保存的治療手技を行うことができる。(ロールプレイ / 資源: 学生)	松葉杖歩行の指導ができる シーネによる関節の外固定ができる 筋力訓練の指導ができる	Ⅳ-4 Ⅳ-4 Ⅳ-4					
8		古村	皮膚科	粘膜・皮膚病変の診断のためのダーモスコピー検査を学ぶ (ロールプレイ / 資源: 学生)	ダーモスコピー検査の意味を理解する 適切な態度をとる 検査結果を所見として述べる 口腔や顔面の写真撮影ができる 粘膜・皮膚病変の基本的な診断名を列挙する	Ⅳ-3 Ⅰ-4 Ⅳ-2 Ⅳ-3 Ⅲ-17			「皮膚科学」の講義資料のうち皮膚・粘膜の色素性母斑、悪性黒色腫、血管腫に目を通しておく。	1.5
9		秋家	形成外科	マイクロサージャリーに用いる器具を扱える (シミュレーション実習 / 資源: 微小血管吻合練習用血管モデル)	マイクロサージャリーに用いる器具がわかる 練習用血管を適切に固定し、顕微鏡の視野が確保できる 適切に顕微鏡のフォーカスを固定できる 顕微鏡下で持針器に10-0 ナイロン糸を適切に把持できる	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅳ-8	「形成外科学」の講義資料に目を通しておく	1.5		
			血管吻合に際して愛護的操作ができる (シミュレーション実習 / 資源: 微小血管吻合練習用血管モデル)	血管を扱う際に愛護的操作ができる 血管吻合の際、適当な位置に針を刺入できる 顕微鏡下に単結紮縫合ができる 縫合時の細かい注意事項に留意して血管吻合を完成できる	Ⅳ-8 Ⅳ-8 Ⅳ-8 Ⅳ-17					
10			内視鏡	消化管・腹部臓器の基本構造・局在・機能を説明できる (検査見学 / 資源: 同意の得られた患者)	上下部消化管内視鏡検査の利点・欠点を説明できる 腹部超音波検査で、腹部内臓器の局在を理解できる 腹部消化管の機能を説明できる	Ⅳ-3 Ⅳ-3 Ⅲ-2	外科学、臨床医学概論の講義資料とOSCEでの縫合などの手技を再度目を通す。	1.5		

臨床実習(訪問歯科センター) 【実習】

科目番号 0D051404L

通年:

評価責任者: 今井 裕子

今井裕子*1

担当教員: 堤 貴司*1

*1 訪問歯科センター

(一般目標)

地域包括ケアシステムにおいて、医療チームの一員として歯科訪問診療の実践のために、必要な知識・技能・態度を修得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

I-1, III-13, III-17, III-19, IV-15, IV-17, V-3

(教育方法)

診療参加型臨床実習

相互実習(ロールプレイ)

(診療介入・介助)(実習・演習)

(ディスカッション・ディベート)(実習・演習)

(学習方法)

事前学習を行っていることを前提に進めるので、必ず事前に教科書・参考書・授業プリントを用いて予習を行うこと。また実習終了後は必ず重要事項の復習を行い、理解を定着させるよう努めること。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間: 2.0時間】

(評価)

評価シートを用いての評価: 評価後、コメントとともに返却

口頭試問による評価: 試問中に適宜、コメント

(教科書)

①今井裕、岩淵博史 監修「有病者歯科学」第3版 永末書店 2024

全身疾患と歯科治療時の注意点についてわかりやすく解説されている。

(参考書)

①西田百代 監修「有病高齢者歯科治療のガイドライン(上・下)」クインテッセンス出版 2013

全身疾患と歯科治療についてわかりやすく解説されている。

回	日	担当者	ユニット	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	DP	予習の項目	必要時間
1		今井、堤	訪問歯科センター	訪問診療を体験する(水準1)学習方略1: 患者実習 / 資源: 同意の得られた患者、学習方略2: 学生相互実習 / 資源: 学生	訪問診療の必要性を説明する 患者の全身疾患・病態とそれに応じた歯科治療時の注意点を列挙する 訪問診療における患者安全対策(医療安全・感染対策)を実施する 訪問診療で口腔ケアを実施する	V-3 III-19 IV-15 I-1	地域医療・災害口腔医学、訪問歯科学で学習した教科書、講義資料	1.0
2		今井、堤	訪問歯科センター	地域包括ケアシステムにおける歯科の役割を理解する(水準3)学習方略1: 患者実習 / 資源: 同意の得られた患者、学習方略2: 学生相互実習 / 資源: 学生	地域包括ケアシステムにおける歯科の役割を説明する 急性期・回復期・慢性期・終末期の歯科治療・口腔ケアの必要性を説明する 患者の疾患、病期・病態に配慮した治療計画を立てる 急性期・慢性期患者への歯科治療・口腔ケアを補助する	V-3 III-17 III-13 IV-17	地域医療・災害口腔医学、訪問歯科学で学習した教科書、講義資料	1.0

臨床実習(医科歯科統合シミュレーション実習) 【実習】

科目番号 OD051404M

通年：

評価責任者： 都留 寛治

担当教員： ロボット実習担当者

(一般目標)

ロボットを活用したシミュレーション実習で様々な場面を経験することで、患者に診療行為を行う知識・技能・態度を習得する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

IV-2

(教育方法)

ロボットを活用したシミュレーション実習
(実習・演習)

(学習方法)

事前に評価シートの内容を確認する。実習当日は教員の説明をよく確認し、必要な行動を整理して実習に臨むこと。 【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間： 時間】

(評価)

基本診療ケース各科共通シートに記載の内容に基づいて評価する。
成績は臨床実習の総合評価に含めてポータルサイトに掲示する。

(教科書)

指定なし

(参考書)

指定なし

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
1			医科歯科統合シミュレーション実習	適切なコンポジットレジン窩洞形成の準備ができる (シミュレーション実習 / 資源：ロボット)	注射器を正しく準備できる	IV-2	基本診療ケースの各科評価シートのシミュレーション実習欄を確認すること	0.5
					正しいポジションで処置ができる	IV-2		
					適切な部位に注射針を刺入できる	IV-2		
					清潔、安全性、痛みおよび不快感に配慮した操作ができる	IV-2		
					タービンの動作確認ができる	IV-2		
					適切なタービンの保持ができる	IV-2		
					形成時のフィンガーレストが適切にできる	IV-2		
2			医科歯科統合シミュレーション実習	血管迷走神経性失神に適切に対応できる(シミュレーション実習 / 資源：ロボット)	意識の確認ができる	IV-2	同上	0.5
					呼吸の確認ができる	IV-2		
					脈拍を測定し、徐脈か頻脈か、整か不整脈かを診断できる	IV-2		
					血圧を測定し、診断できる	IV-2		
					適切な患者体位をとることができる	IV-2		
					SpO2を測定し、診断できる	IV-2		
					呼吸数を測定し、判定できる	IV-2		
					心電図モニターの電極を正しい部位に装着できる	IV-2		
					心電図モニターの正常波形を認識できる	IV-2		
					再度、脈拍、血圧を確認し、判定できる	IV-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
3			医科歯科統合シミュレーション実習	過換気症候群発症に適切な対応ができる（シミュレーション実習 / 資源：ロボット）	意識の確認ができる	IV-2	同上	0.5
					呼吸の確認ができる	IV-2		
					脈拍を確認し、徐脈か頻脈か、整か不整脈かを確認できる	IV-2		
					血圧を測定し、診断できる	IV-2		
					SpO2を測定し、診断できる	IV-2		
					呼吸数を測定し、判定できる	IV-2		
					心電図モニターの電極を正しい部位に装着できる	IV-2		
					心電図モニターの正常波形を認識できる	IV-2		
					過換気に対して対応できる	IV-2		
					再度、脈拍、血圧、SpO2を確認し、判定できる	IV-2		
4			医科歯科統合シミュレーション実習	心筋梗塞発症（ショックなし）に適切な対応ができる（シミュレーション実習 / 資源：ロボット）	意識の確認ができる	IV-2	同上	0.5
					脈拍を確認し、徐脈か頻脈か、整か不整脈かを診断できる	IV-2		
					血圧を測定し、診断できる	IV-2		
					適切な患者体位をとることができる	IV-2		
					呼吸数を測定し、判定できる	IV-2		
					心電図モニターの電極を正しい部位に装着できる	IV-2		
					心筋梗塞の波形を認識できる	IV-2		
					応援を呼ぶことができる	IV-2		
					酸素マスクを装着できる	IV-2		
					再度、脈拍、血圧、SpO2を確認し、判定できる	IV-2		
5			医科歯科統合シミュレーション実習	心筋梗塞発症（意識なし）に適切な対応ができる（シミュレーション実習 / 資源：ロボット）	意識の確認ができる	IV-2	同上	0.5
					橈骨動脈部で脈拍を確認できる	IV-2		
					頸動脈部で脈拍を測定し、診断できる	IV-2		
					血圧を測定し、診断できる	IV-2		
					適切な患者体位をとることができる	IV-2		
					SpO2を測定し、診断できる	IV-2		
					酸素マスクを装着して酸素吸入できる	IV-2		
					心電図モニターの電極を正しい部位に装着できる	IV-2		
					心筋梗塞の波形を認識できる	IV-2		
					再度、意識、脈拍、血圧、SpO2を確認し、判定できる	IV-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
6			医科歯科統合シミュレーション実習	アナフィラキシーショック (意識あり) に適切な対応ができる (シミュレーション実習 / 資源: ロボット)	意識の確認ができる	IV-2	同上	0.5
					呼吸の確認ができる	IV-2		
					アナフィラキシーを疑い、応援を呼び、アドレナリン (エピベン) を依頼できる	IV-2		
					脈拍を確認し、徐脈か頻脈か、整か不整脈かを診断できる	IV-2		
					血圧を測定し、診断できる	IV-2		
					適切な患者体位をとることができる	IV-2		
					SpO2を診断できる	IV-2		
					呼吸数を測定し、判定できる	IV-2		
					心電図モニターの電極を正しい部位に装着し、正常波形を認識できる	IV-2		
					再度、脈拍、血圧、SpO2を確認し、判定できる	IV-2		
7			医科歯科統合シミュレーション実習	アナフィラキシーショック (意識なし) に適切な対応ができる (シミュレーション実習 / 資源: ロボット)	意識の確認ができる	IV-2	同上	0.5
					アナフィラキシーを疑い、応援を呼び、アドレナリン (エピベン) を依頼できる	IV-2		
					呼吸の確認ができる	IV-2		
					SpO2を診断できる	IV-2		
					呼吸数を測定し、判定できる	IV-2		
					橈骨動脈部で脈拍を確認し、診断できる	IV-2		
					頸動脈部で脈拍を確認し、診断できる	IV-2		
					血圧を測定し、診断できる	IV-2		
					心電図モニターの電極を正しい部位に装着し、正常波形を認識できる	IV-2		
					再度、意識、脈拍、血圧、SpO2を確認し、判定できる	IV-2		
8			医科歯科統合シミュレーション実習	小脳出血に適切な対応ができる (シミュレーション実習 / 資源: ロボット)	意識の確認ができる	IV-2	同上	0.5
					脈拍を確認し、徐脈か頻脈か、整か不整脈かを診断できる	IV-2		
					血圧測定し、診断できる	IV-2		
					眼振を確認できる	IV-2		
					応援を依頼できる	IV-2		
					SpO2を測定し、診断できる	IV-2		
					呼吸数を測定し、判定できる	IV-2		
					心電図モニターの電極を正しい部位に装着できる	IV-2		
					心電図モニターの正常波形を認識できる	IV-2		
					再度、脈拍、血圧、眼振を確認し、判定できる	IV-2		

(シラバス別紙) 臨床実習担当教員の実務経験について

対象授業	臨床実習
単位数	20

#	科	氏名	当該科目に関連する職歴と実務経験の教育への活用
1	総合歯科	山田 和彦	保存科、総合歯科での30年の実務経験から、口腔プライマリ・ケアの向上を目的とした包括的な総合歯科治療の技能を習得させる授業を展開していく。
2	総合歯科	谷口 奈央	総合歯科および口臭クリニックでの21年間の実務経験をもとに、歯科医師に求められる適切な態度および口腔衛生に関する実践的な技能を習得させる授業を展開していく。
3	高齢者歯科	内藤 徹	歯周病、総合歯科、有病高齢者に関する38年の臨床実務経験をもとに、基礎疾患を有する高齢者、認知症高齢者などに対する診療技能や、介護技術を習得させる授業を展開していく。
4	訪問歯科センター	今井 裕子	有病高齢者に携わる20年の実務経験から、訪問歯科医師として必要な態度および技能を習得させる授業を展開していく。
5	保存	松崎 英津子	歯科保存治療における26年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および保存系の技能を習得させる授業を展開していく。
6	歯周病	吉永 泰周	歯周病科における23年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および歯周治療系の技能を習得させる授業を展開していく。
7	補綴	松浦 尚志	補綴科で36年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および補綴系の技能を習得させる授業を展開していく。
8	補綴	都築 尊	補綴科で25年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および補綴系の技能を習得させる授業を展開していく。
9	口腔インプラント	加倉 加恵	口腔インプラント科で20年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および臨床の技能を習得させる授業を展開していく。
10	小児歯科	岡 暁子	小児歯科領域における27年の実務経験を踏まえ、歯科医師として必要な態度を学ばせ、これまでに身につけた小児歯科領域の知識を臨床へと活用する機会を経験させる。さらに、小児歯科領域で求められる予防処置を中心とした基本的な技術習得を目指し授業を展開していく。
11	障害者歯科	森田 浩光	九州大学病院全身管理歯科、福岡歯科大学総合歯科学講座総合歯科学分野および同講座訪問歯科センター科で計27年の実務経験から、歯科医師として必要な全身疾患を有する者、障害児・者、要介護高齢者の治療に関する態度および技能を習得させる授業を展開していく。
12	矯正歯科	玉置 幸雄	矯正歯科で27年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および矯正診断・治療法関係の技能を習得させる授業を展開していく。
13	口腔外科	平木 昭光	口腔外科の実務経験は31年です。歯科医師として必要な態度および口腔外科関連の技能を習得できるように授業を行っていく。
14	放射線	香川 豊宏	放射線科で31年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および画像検査および画像診断の技能を習得させる授業を展開していく。
15	麻酔	池田 水子	麻酔科で21年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および麻酔の技能を習得させる授業を展開していく。
16	口腔医療センター	泉 利雄	福岡歯科大学歯科保存学第一講座で15年、口腔治療学講座歯科保存学分野で13年、口腔医療センターで6年の実務経験から、歯科医師として必要な態度および（保存修復学・歯内治療学系）の技能を習得させる実習を展開していく。

成績評価方法、GPA (Grade Point Average) の活用について

GPA (Grade Point Average)

各授業科目の評点を5段階評価し (A・B・C・C-・D)、それを4から0の点数 (GP: Grade Point) に置き換えて、その点数と単位数を掛け、その総和 (GPT: Grade Point Total) を履修単位数の合計で割った平均点

評点	評語	Grade Point (GP)
100点～80点	A	4
79点～70点	B	3
69点～60点	C	2
再試60点	C-	1
59点～0点	D	0

GPA の算出方法

$GPA = GPT \div \text{履修単位数の合計}$

($GPT = [GP \times \text{単位数}]$ の総和)

実際の計算例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP(b)	(a × b)
〇〇学講義	1	86	A	4	4
〇〇学講義	2	再試60	C-	1	2
〇〇学演習	2	60	C	2	4
〇〇学実習	3	72	B	3	9
計	8 ^{*1}				19 ^{*2}

$GPA = 19(GPT^{*2}) \div 8$ (単位数の合計^{*1}) = 2.38 (小数第3位四捨五入)

対象教科

原則として、進級あるいは卒業により認定された全ての授業科目を対象とする。

ただし、次の授業科目や修得単位等は計算に含めない。

- 1) 基礎教養科目で必要単位数を超えて取得した科目
- 2) 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4) その他教授会で認めた GPA 算出除外科目

GPA の活用目的

- 1) 学生の個別の学習指導に活用

前年度 GPA が2.00未満の学生は、進級するのにかなりの努力が必要な状況にあります。

- 2) 特待生等の選考の参考資料に活用

授 業 要 綱

編集
発行 福岡歯科大学

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
電話 092 (801) 0447番
Fax 092 (801) 0427番